

< 競技共通ルール >

FIS 世界選手権（グラススキー種目）の技術的实施に関し、この国際競技規則（ICR）に規定されていない事項については、FIS グラススキーワールドカップルールが適用される。

600 組織（Organization）

211 条に関連事項

601 組織委員会（Organizing Committee）

601.1 構成

組織委員会は開催者及び国際スキー連盟（FIS）から委任を受けたメンバー（個人または法人）により構成される。組織委員会には開催者の権利、任務、義務が伴う。

601.2 FIS による任命

FIS は、全レースの技術代表（Technical Delegate = TD）を任命する。

601.2.1 ワールドカップレースの場合：

- レフリー（主審）（チーフ・レース・ディレクター）
- DH（滑降）やスーパー-G においては、アシスタントレフリー（副審）（レース・ディレクター）

601.2.2 FIS 世界選手権大会：

- 全ジュリーメンバー（第601条4.1参照）

601.2.3 その他すべてのレースでは、TD が下記を任命する：

- レフリー（主審）
- DH（滑降）とスーパー-G においては、アシスタントレフリー（副審）

601.2.4 前条項の任命により、当該者は組織委員会のメンバーにもなる。

601.3 開催者による任命

主催者はその他の組織委員会のメンバーを指名する。

委員長、またはその代理人は委員会を一般に公開し、委員会をリード（指揮）し、すべての議案事項に関する決議を執るが、その決定事項は、第三者、または、他の組織によって決められるものではない。競技の開催前、開催中、そして、開催後において彼はFIS(国際スキー連盟)とその指名した競技役員らと親密に連携を持つ。

競技運営上、必要な事柄についてもすべての責務を果たすものとする。

開催者がその他すべての組織委員会メンバーを任命する。

601.3.1 競技委員長 The Chief of Race

競技委員長は競技のすべての準備を指導し、技術的な活動を監督する。競技委員長は技術的な問題の解決のために会議を招集し、そして、TD の監督の下、チームキャプテン会議（TCM）を指揮する。

601.3.2 コース係長 The Chief of Course (Section Chief)

コース係長には、ジュリーの決定及び指示に従ったコース整備を行う責任がある。

コース係長は競技関連地域特有のコース状況に精通していなければならない。

601.3.3 スタート審判 The Start Referee

スタート審判は、公式インスペクションが始まる時間からトレーニング及びレース（競技）が終了するまでの間、スタートにいなければならない。

- スタート審判は、スタートに関する規定及び、スタート体制が適正に順守されていることを確実なものにしなければならない。
- スタート審判は、遅延スタート及び不正スタートの判断を下す。
- スタート審判は、常時、全ジュリーメンバーと即時連絡が取れる状態にななければならない。（705.5 条参照）
- スタート審判は、スタートしなかった選手の氏名を主審に報告し、不正、または遅延スタート、または競技用品規則を含むすべての競技規則に対する違反行為に対し、対象競技者名をジュリーに報告する。
- スタート審判は、予備ピブがスタートに確保されている事を確認しなければならない。

601.3.4 フィニッシュ審判 The Finish Referee

フィニッシュ審判は、公式インスペクションが始まる時間からトレーニング及びレース（競技）が終了するまでの間、フィニッシュにいなければならない。

- フィニッシュ審判は、フィニッシュ体制及びフィニッシュのインラン、アウトランに関する規定が適正に順守されている状況を確認なものにしなければならない。
- フィニッシュ審判は、フィニッシュエリアにおいて、フィニッシュコントローラー、計時、観客コントロールを監督する。
- フィニッシュ審判は、常時、全ジュリーメンバーと即時連絡が取れる状態にななければならない。
- フィニッシュ審判は、フィニッシュしなかった選手の氏名を主審に伝え、すべての競技規則に対する違反行為があった場合、その対象選手の氏名をジュリーに報告する。

601.3.5 旗門審判係長 The Chief Gate Judge

旗門審判係長は、旗門審判員を組織し、その仕事を監督する。各旗門審判員の担当旗門を指定し、旗門審判員を配置する。

1 本目終了時とレース終了時に旗門審判員より旗門通過票（Control Card）を回収し、主審に渡す。旗門審判係長は、各旗門審判員に必要な物品（旗門通過表、鉛筆、スタートリスト等）を十分間に合うような時間に配布し、観客のコース外への誘導、またはコースの維持整備などへの支援ができるよう準備し指導する。

旗門審判係長は、旗門のマーキングやナンバリング規定時間内に完了している事を確実にしなければならない。

601.3.6 計時計算係長 The Chief of Timing and Calculations,

計時計算係長には、計時・計算を含め、スタート及びフィニッシュの役員の協調の維持、調整をする責任がある。

回転競技では計時計算係長または特別アシスタントが、スタートインターバルを決定する。

次の役員は計時計算係長の指揮下に置かれる：

- スターター（スタート合図員）
- アシスタントスターター
- スタート記録員
- 計時主任
- アシスタント計時員
- フィニッシュコントローラー
- 計算主任及びそのアシスタント

601.3.7 レースセクレタリー The Race Secretary

レースセクレタリーには、競技運上の技術的な面、とりわけドロアの準備に関するすべての事務的作業について責任がある。第617.3.4条で定めた情報が必ず公式リザルトに含まれるようにしなければならない。専門役員、ジュリー及びチームキャプテンのミーティングの議事録に関する責任も負う。

スタート、フィニッシュ、計時、計算、旗門審判に関するすべての書類を十分に用意し、関係役員に適切な時期に順序良く手渡せるようにしなければならない。

公式抗議を受け取り、それを関係者に渡す。

適切な準備によりリザルト計算を容易にする。そして、競技終了後、迅速に印刷、公開されるように最善を尽くす。

601.3.8 医事係長 The Chief of Medical and Rescue Services

医事係長には、公式トレーニング及び実際の競技中の適切な応急手当や医療に関する対応に責任がある。負傷した選手を運び、手当を行える適切な設備を整えなければならない。レースドクターは、公式トレーニングが始まる前にチームドクターと打ち合わせて計画を立てる。

医事係長は、トレーニング及びレース中にアシスタントと電話か無線で連絡が取れるようにしていなければならない。公式トレーニングが始まる前に競技委員長と打ち合わせて計画を立てなければならない。この職務をチームドクターに委任することもできる。

医事支援必要事項の詳細は"FIS MEDICAL GUIDE"の第一章に医事規定及びガイドラインと共に記されている。

601.3.9 組織委員会に属する他の競技役員

以下の競技役員も指名することができる。

601.3.9.1 会場係長 The Chief Steward

会場係長には、観客がコース内に入れないように適切なコース閉鎖をするために必要な計測を行う。詳細な計画に従って十分な人員を登用する。観客が移動できるように、フェンスの後ろに十分なスペースを確保するよう注意を払う。

601.3.9.2 器材係長 The Chief of Course Equipment and Technical Equipment

機材係長は、コース整備とメンテナンス、レースの進行に関する器材の調達、そしてそれ

らの器材の配給方法などについて他の役員に割り当てられていない場合、責任を負う。

601.3.9.3 報道係長 The Chief of Press

報道係長は、組織委員会の指示に従い、ジャーナリスト、カメラマン、テレビ及びラジオレポーターに対する情報及びブリーフィングすべてに関して責任を負う。

601.3.9.4 その他の組織委員会役員（職務解説文書付き）

- 財務係長（会計係）
- 飲食宿泊係長
- 式典係長 The chief of protocol

開催者は、その他の役員を組織委員会に組み込む権限を持つ。

601.4 ジュリー The Jury

組織委員会メンバーである次のジュリーメンバーは、囲まれた競技エリア内における技術的な事柄に対し責任を負う。（オリンピック冬季大会（OWG）、世界選手権大会（WSC）、ワールドカップ（WC）における主審（Race Director）並びにTDの職務解説について、ワールドカップ特別ルールを参照）：

- T D The Technical Delegate 技術代表
- 主審 the Referee
- 競技委員長 the Chief of Race
- 滑降とスーパー-G の副審
- スタート審判（オリンピックと世界スキー選手権）
- フィニッシュ審判（オリンピックと世界スキー選手権）

601.4.1 冬季オリンピック及びFIS 世界選手権のジュリーの任命

601.4.1.1 FIS 理事会が次の役員を任命する：

- 技術代表（TD）
- 主審（レフェリー）
- 副審（アシスタントレフェリー）
- スタート審判
- フィニッシュ審判

601.4.1.2 アルペンTD 小委員会は、ジュリーメンバーとしての資格を備えたTD をアルペン委員会に推薦し、次にアルペン委員会がその推薦TD 名をFIS 理事会に提出して承認を得る。資格を認められるためには、推薦されたメンバーはFIS のTD としての有効なライセンスを持っていなければならない。さらにTD としての職務を果たすためには、被指名者はFIS アルペン技術委員会のメンバーでもなければならない。

601.4.1.3 開催国スキー連盟は組織委員会に所属する競技委員長を理事会の承認を得るために提出する。

601.4.1.4 女子レースのジュリーには、女性が一名、含まなければならない。

601.4.1.5 全ジュリーメンバーは、FIS 公式言語の何れか一言語を共用語として、お互い

の意思の疎通を図ることができなければならない。

601.4.1.6 その国のスキー連盟のために働きスキーチームに責任ある者は、ジュリーメンバーにはなれない。

601.4.1.7 冬季オリンピック及びFIS 世界選手権では、1 名だけが参加国を代表して、FIS 理事会の任命するジュリーメンバーとなることができる。(TD を除く)

601.4.2 国際レースにおけるジュリーの任命(ワールドカップについてはワールドカップルールを参照)

603.4.2.1 アルペンTD 小委員会がTD(技術代表)を任命する。

601.4.2.2 TD が次の審判または役員を任命する：

- 主審(レフェリー)

滑降とスーパーG では副審(アシスタントレフェリー)も任命する。

- 不可抗力によるジュリーメンバーの交替。

601.4.2.3 女子の国際レースにおいては、可能であれば女性をジュリーに入れること。

601.4.2.4 競技委員長は、開催国スキー連盟に所属していなければならない。

601.4.3 対象外

601.4.3.1 選手は、ジュリーメンバーにはなれない。

601.4.4 ジュリーの職務期間

601.4.4.1 任命されたジュリーメンバーは、公式トレーニングが始まる前に、第1 回目の会議を開くために集合する。

601.4.4.2 ジュリーの実務は、第1 回目の会議から始まり、抗議が提出されていない場合は、抗議受付締切り時間終了時に終わる。抗議が提出されている場合は、提出された抗議すべてを処理した後に終了する。

601.4.5 投票権と投票(WC:ワールドカップルールも参照)

TD はジュリーの議長である。TD が会議の指揮をとる。

ジュリーの中で以下の綱目に対し、1 投票権を持つ：

601.4.5.1 冬季オリンピック及びFIS 世界選手権では、全ジュリーメンバー。

601.4.5.2 国際レースでは、TD、競技委員長、主審、滑降及びスーパーG の場合は副審。

601.4.5.3 出席メンバーの単純多数決により決定を下す(例外:第646.3 条)。

601.4.5.4 投票が同数で分けた場合、TD が決定票を有する。

(FIS ワールドカップ規則も参照のこと)

601.4.5.5 第603.3.7 条により、すべてのジュリー会議及びジュリー決定の議事録を作成する。各ジュリーメンバーが署名をし、決定に関する個々の投票も記録する。

601.4.5.6 議事録は少なくともFIS 公用語(英語、仏語、独語)のうちの1 つで書かれなければならない。

601.4.5.7 即時の決定が必要でありながら全ジュリーを招集できない場合、各ジュリーメンバーはレース前及びレース中に、ルール上ジュリーに委ねられている決定を下すことが

できる。しかし、あくまでも暫定的なものであり、できるだけ早くその決定を Jury に確認してもらう義務がある。

601.4.6 Jury の任務

Jury は、公式トレーニングも含むレース全体を通じてルールの順守を監視する。

601.4.6.1 テクニカルな見地から：

- レースコースとコースセットのチェック
 - コースの状態のチェック
 - コース整備のチェック
 - 斜面圧縮機器及びその他化学製品の使用の承認
 - 観客コントロール体制のチェック
 - スタート及びフィニッシュエリア、フィニッシュからの退避経路のチェック
 - 救急サービスのチェック
 - コースセッターの任命
 - コースセッティング時間の調整
 - コースセッターの作業の監督
 - ゲートフラッグの無作為抽出検査
 - 準備作業に関わる技術的及び天候を考慮に入れた、トレーニング用のレースコースのオープン及びクローズ
 - コースインスペクション方法の決定
 - レース前のコースインスペクション
 - 各ランの前走者数決定及び前走者のスタート順決定
 - 必要に応じた前走者からの報告聴取
 - コースコンディションを考慮した場合及び異常な状況の場合のスタート順変更
 - スタートインターバルの変更
 - 旗門審判員への指示及び旗門審判員から情報収集
- 滑降の場合：
- 異常な天候の場合のインスペクションの追加手配
 - 公式トレーニングの短縮
 - イエローゾーンの位置決定
 - 旗門のセットのチェック
 - 公式トレーニングにおいて、その経験的視点による旗門位置や間隔の変更、または、旗門を新たに増設するなど、コースの内容に大幅な変更があった場合、選手には、改めてトレーニングランを少なくとも 1 回以上許諾しなければならない。
- ##### 601.4.6.2 競技組織の見地からは：
- ドロー用の選手のランキング決定。
 - 定められた基準に従った、ポイントなしの選手のグループ分け

- 再レースの許可
- 次の理由によるレースの中止（レース開始前）
- コースコンディション（コースの状態）が適切でない場合
- テクニカルアドバイザー報告に記載された勧告が実行されていない場合
- 救急、医療体制が不適切、または全くない場合
- 観客コントロールが不十分である場合
- コースコンディションや天候により必要と考えられる場合のコースの短縮
- 第624 条の必要条件に当てはまる場合のレース中断
- 第625 条の必要条件に当てはまる場合のレース中止

601.4.6.3 特に規律的見地からは：

- 身体的能力や技術的能力不足の選手を除外するというTD、またはジュリーメンバーの一人からの提案に対する決定
- 競技エリアにおける用品及び衣服（着衣）上の広告に関する規定の検査の実施
- 競技役員、技術者（サービスマン）医療関係者のレースコース入場許可枠の限定
- 制裁の発表
- 抗議に関する決定
- 大会全体を通じた特定の指令の発行

601.4.7 ルール上にない問題

ルール上明確でないすべての問題については、一般にジュリーが決定を下す。

601.4.8 無線

FIS カレンダーに掲載されているすべての競技会で、ジュリーメンバー及び、スタート審判、フィニッシュ審判は無線を装備していなければならない。この無線は同一の専用周波数で機能し、妨害の無いものでなければならない。

601.4.9 すべての競技会に関するTD の任務

FIS ワールドカップ、FIS 世界選手権及び冬季オリンピックについては、TD の任務をワールドカップルールに定める。

601.4.9.1 レース開始前

TD は：

- コース公認関係書類を再吟味し、特別許可の存在について関係者に尋ねる。コース公認が存在しないと判断した場合、ジュリーはレースを中止する（第650条を参照）。その開催地で過去に実施された競技TD 報告書を読み、これらの報告書の中で提案された改善が実行されているかどうかをチェックする。
- 第212 条により必要とされている責任保険証書を点検し、必要な場合はFIS に報告する。
- 競技コース及びトレーニングコースのインスペクションを行う。
- 公式トレーニングに関する第704 条の順守を監督する。またゲートフラッグの無作為抽出検査をする。

- 運営的な準備、テクニカルな準備において共同作業を進める。
- FIS ポイントを含む公式エントリーリストをチェックする。
- ジュリーメンバー全員に渡るだけの単独周波数帯無線通信機数を確認する。
- 競技コースへの入場許可証及び入場許可内容について注意を払う。
- 整備、マーキング、観客コントロール、スタートエリア及びフィニッシュエリアのレイアウトに関してレースコースをチェックする。
- ジュリーと共にコースセッティングを監督する。
- テレビカメラタワーの位置をチェックし、適切に保護されているかを見る。
- コース沿いの救急サービスの所在及び医療体制をチェックする。
- 計時記録、手動計時、連絡網、人の輸送などすべてのテクニカルな設備をチェックする。
- すべてのトレーニング中レースエリアにいる。
- すべてのジュリー会議、チームキャプテンミーティングに出席する。
- 組織委員会の役員及びFIS テクニカルアドバイザーと密接に協力し合う。
- ジュリーのチーフであり、投票が同数で分けた場合は決定票を有する。
- 必要であれば、ジュリーを任命する。
- 回転または大回転競技が「不可抗力」により公認コースで実施できない場合、開催者が提案する「代替コース」にレースを移す権利がある。ただし、必要な公認基準が満たされていることが絶対条件である。

滑降とスーパー-G では公認コースの滑走全長を短縮することしかできない。しかし、規定の最低標高差はいかなる場合でも順守されなければならない。

601.4.9.2 レース中

TD は :

- コースエリアにいなければならない。
- ジュリー、チームキャプテン、コーチと密接に協力して仕事を進める。
- ウェアーやレース用品上の広告などに関する現行ルールや規定が順守されているかを観察する。
- テクニカルな面及び競技組織面から競技運営を監督する。
- FIS ルールと各種規定の順守、およびジュリーの指導に関して開催者にアドバイスする。

601.4.9.3 レース終了後

TD は :

- 主審の失格報告書の作成を手伝う。
 - 個々のレースについてレースポイントとペナルティーポイントを計算する。
- これらのポイントがコンピューターによって計算される場合、ポイントを再チェックし自筆の署名をしてその正確性を追認する。特に種目毎のF値が正しく使われているかをチェックする。
- 正当に提出された抗議であれば、最終決定を求めるため、これをジュリーに提出する。

- レースセクレタリーが作成した公式リザルトリストに署名し、表彰式に承認を与える。
- 追加報告書も含め、TD 報告書を作成する。そして3 日以内にそれをFIS 及びその他適所に発送することに責任を負う。
- その競技会における実際の経験に基づき、競技ルールの変更に関して適切な提案をFIS に提出する。

601.4.9.4 一般にTD は :

- FIS ルールではカバーしていないか、あるいは十分にカバーできていない問題について、これらがジュリーによって解決されておらず、かつ他の関係部署の権限範囲に入らない事項を、決定する。
- 主審、副審と密接に協力して仕事を進める。
- 選手をレースから排除することを、ジュリーに提案する権利を有する。
- 任務遂行に必要なあらゆる事柄において、組織委員会及びその管轄下の全役員からサポートを得る権利を有する。

601.4.9.5 冬季オリンピック、FIS 世界選手権、FIS ジュニア世界選手権

TD は、FIS 及び組織委員会に提出する詳細な最終報告書を作成する。

601.4.10 主審の任務及び権利

- スタートナンバーのドロウ。
- コースセット終了後直ちに、単独あるいはジュリーメンバーと共に、コースインスペクションを行う。
- 旗門を取り除いたり追加したりして、コースを変更する。主審が単独でコースインスペクションを行った場合、主審の決定が最終決定である。コースセッターがこのコースインスペクションに参加していなかった場合、コースセッターにこの変更を知らせなければならない。
- ルール違反や不正旗門通過について、1 本目終了後及び2 本目終了後に、スタート審判、フィニッシュ審判及び競技役員から報告を受ける。
- 各ラン終了後直ちに、主審決定報告書をチェックし、署名した上で公式掲示板に公示する。また、フィニッシュハウスには、失格選手氏名、不正発生旗門ナンバー、失制裁の原因となった不正を記録した旗門員氏名、及び正確な失格時間を記載したリストを掲示する。
- 特殊なケースやジュリーメンバーの間に意見の相違があった場合、選手が重傷を負った場合は、FIS に報告書を送る。

601.4.10.1 TD との協力

主審及び副審は、TD と密接に協力して仕事を進めなければならない。

601.4.11 テクニカルアドバイザー (The Technical Advisor)

ジュリーをサポートするためアルペン委員会は、全カテゴリーのレースについて、テクニカルアドバイザーを任命することができる。テクニカルアドバイザーには、ジュリーの中で自らの意見を述べる権利があるが、投票権はない。

601.5 FIS は、ジュリーもしくはジュリーメンバーに対し、制裁を課することができる。

602 技術代表 (TD) The Technical Delegate

602.1 定義

602.1.1 TD の主な任務

- FIS のルール及び指示が順守されているかを確認する。
- 大会がスムーズに運営されるよう監督する。
- TD の任務の範囲内で開催者にアドバイスする。
- FIS の公式代表となる。

602.1.2 責任

TD 機構はアルペン委員会の責任下にある。

アルペンTD 小委員会がこの権限を行使する。

602.1.3 必要条件

TD は、有効なTD ライセンスを所持していなければならない。(例外：第604.3 条を参照)

602.1.4 資格取得まで

602.1.4.1 TD の資格取得までの段階は：

- 志願者- 国内FIS レースの監視員水準- 面談試験 (口頭会話)
- 筆記試験- 候補者- 実地TD 試験- TD

FIS は各国連盟に対し、志願者については40 歳、TD については65 歳の年齢制限を適用することを勧告する (基準月日：7 月1 日)。

602.1.4.2 各国連盟は、TD 候補者として有能な人物を推薦することができる。

アルペンTD 小委員会がこれらの受諾に関する最終決定を行う。

602.1.5 研修 (Training)

602.1.5.1 志願者の基本研修は、各国連盟の責任とする。

602.1.5.2 志願者は各国連盟によって推薦されなければならない。

1 年目

- 志願者は加盟国連盟によって年次開催されるTD アップデートセミナー (研修) に出席しなければならない。(南半球：6 月~7 月、北半球：10 月~11 月)
- 所属する加盟国内で開催されるFIS レースに2 レース以上係わり、TD コミッショナー、またはTD コミッショナーが指名する代理人の監督下で経験を積むこと。
- これらのレースにおいて、TD 報告書を作成し、TD コミッショナー及び、コピーをFIS 本部へ送る。(公用言語を使用すること)
- シーズン終了後、加盟国連盟は、FIS に対し志願者の公式な受諾を申請する。この際、そのコピーをTD コミッショナーにも送付する。

2 年目

- 志願者は、各国連盟が開催するFIS の研修コースに参加しなければならない。
- FIS 公用語にて執行される筆記と口頭 (面談) 試験に合格しなければならない。

候補者として

TD 試験官（他国よりの）の監視下にて：

- アセスメント（現況査定）の実技試験（スピード系種別）
- 実技試験（技術系種別：実際にTD として執務にあたる）
- これらのレースにおいて、公式報告書を作成し、TD コミッショナー及び、コピーをFIS 本部へ送る。（公用言語を使用すること）
- FIS 本部では、すべての情報と候補者及び、試験官からの様々な報告書を検証し、そして、TD 小委員会に必要な情報を提供する。
- 小委員会は、候補者がすべての必要な条件を満たせない場合、または適切ではないと判断した場合、TD ライセンスを発行しない決定をする場合がある。この状態において小委員会は候補者がTD としてのトレーニング及び、再試験該当項目について決定する。
- もし、候補者が「FIS Alpine Technical Delegate（技術代表）」として相応しいと判断された場合、次のTD アップデート研修会後に指名される。

602.1.5.3 いかなる大会においても、1 名のTD が受け持つことのできるTD 候補者は1 名だけである。FIS が例外を認める権限を持つ。

602.1.5.4 各国連盟のTD 責任者からの提案に基づき、FIS がTD 候補者に実地課題を与え、各候補者の課題の遂行具合をチェックする。

602.1.5.5 TD 候補者には費用補償を受ける権利はない。

602.1.5.6 TD は、担当するTD 候補者の研修に関して責任を負う。

602.1.6 ライセンス

ライセンスはナンバーのついた証明書で、有効期限12 か月である。毎年更新しなければならず、それは各TD の義務である。

602.1.7 ライセンスの継続と失効

ライセンスを取得したTD は全員、FIS の監督下で開催される研修コースに参加しなければならない。正当な理由なしに2 年連続してこのコースに参加しなかった場合やTD の業務に就かなかった場合、TD ライセンスを失う。これを再取得するためには、再度TD 候補者としての資格及び必要条件を満たさなければならない。

602.2 任命

602.2.1 冬季オリンピック、FIS 世界選手権およびFIS ジュニアワールドスキーチャンピオンシップについては、アルペン委員会の推薦により、FIS 理事会が任命する。

602.2.2 その他すべての大会については、アルペンTD 小委員会が任命する。

602.2.3 チルドレン、シチズン、マスターズ、C I S M、カスタムズ、ユニバーシティレースに関しては例外とし、各々の担当委員会からTD が推薦された場合、アルペンTD小委員会は例外的に確認、承認ことがある。

602.2.4 開催国連盟のメンバーは、TD になれない。

特例として、アルペンTD 小委員会は当該国のTD を任命することもできるが、そのTD は開

催クラブまたは地域連盟のメンバーであってはならない。

602.3 TD の交代

602.3.1 冬季オリンピック、FIS 世界選手権及びFIS ジュニアワールドスキーチャンピオンシップのTD が任務につけない場合は、FIS 理事会及びそのTD の所属国連盟に連絡する。FIS 理事会は直ちに代替りのTD を任命しなければならない。

602.3.2 その他すべての大会については、代替りのTD を直ちに任命する責任は、TD の所属国連盟にある。組織委員会及びFIS に直ちに連絡する。

602.3.3 冬季オリンピックまたはFIS 世界選手権のTD が、予期せぬ理由により競技会に到着しない場合、または到着が遅すぎて競技でのTD の職務を部分的にもしくは全く遂行できない場合、その競技会場にいるジュリーの中から、FIS 理事会が代理を指名する。

602.3.4 その他全ての国際レースにおいては、欠場したTD の代理は、現地でジュリーが指名する。代理TD も、第602.1.6 条の必要条件を満たしていなければならない。緊急の場合、これらの条件を満たさなくても、競技の運営（継続）を保證できる有能な人物を指名することができる。この人物の選定には、厳格な基準を用いることとする。

602.3.5 代理TD には、最初に任命されたTD と同様の権利と義務がある。

602.4 任命の組織構成

602.4.1 開催者は、十分な時間的余裕をもってTD と連絡をとらなければならない。

602.4.2 大会の中止または延期については、関連する期限日を考慮に入れて、直ちにTD 及びFIS に連絡しなければならない。

602.4.3 滑降及びスーパー-G 競技については、TD は第1 回トレーニングのドロウの遅くとも48 時間前までに、競技開催地に到着していなければならない。その他すべての種目については、遅くともドロウの24 時間前までに到着していなければならない。

602.5 費用計算

TD には、最高600スイスフラン¹⁾までの旅費の払い戻し(高速料金含む)及び、職務期間中の宿泊及び食事の無料提供を受ける権利がある。このルールは、大会へ出向く際だけでなく、合意を得たインスペクションに対しても適用される(電車は1等、長距離の場合の飛行機はエコノミー、または1 キロメートルにつき0.70 スイスフラン若しくは同等額の支払い)。さらに、100 スイスフランの日当が、業務日だけでなく往復の移動日についても支払われるが、これには報告書の郵送費なども含まれる。ダブルチャージ/二重請求(例:最終レースと同日に帰国する場合など)は認められない。職務への往復の移動過程に宿泊が必要となる場合は、その根拠を明らかにし、別途に払い戻さなければならない。

1) 最高600 スイスフランの払い戻しは、ワールドカップ及びコンチネンタルカップを除く全レースに適用される。

603 コースセッター (Course Setter)

603.1 必要条件

603.1.1 FIS 世界選手権及びワールドカップ:

- 各国スキー連盟のチームキャプテン（監督）からコーチワーキンググループへの推薦と
- ワールドカップOWG、WSC でのコースセッティングにおいて適切な経験があることの証明

603.1.2 FIS カレンダーに掲載されているその他すべての競技会：

- コンチネンタルカップ（COC）：各国スキー連盟から、カップコーディネーターもしくはワーキンググループへの推薦。
- FIS カレンダー内のその他全ての大会：ジュリーもしくは組織委員会による推薦

603.1.3 滑降のコースセッターは、特定のレースコースを熟知していなければならない。

603.2 任命

603.2.1 FIS 世界選手権及びワールドカップについては、チーフレースディレクターによる審査の後、任命が行われる。

603.2.2 ヨーロッパカップ（EC）については、EC コーディネーターがコースセッターを任命する。

603.2.3 FIS カレンダーに掲載されているその他すべての競技会については、ジュリーが任命を行う。2 本に分けて行われる競技については、それぞれ別のコースセッターがセットを行う。2 名のコースセッターのうち1 名は、開催者が指名することができる。

603.3 コースセッターの監督

603.3.1 その他すべての競技会については、ジュリーがコースセッターの仕事を監督する。

603.4 任命の組織構成

OWG、WSC 及びWC のコースセッター任務は、チーフレースディレクターにより遂行される。EC レースにおいては、EC コーディネーターにより遂行される。残り全てのレースはジュリーにより遂行される。

603.5 コースセッターの交替

603.5.1 冬季オリンピック及びFIS 世界選手権については、替わりのコースセッターをチーフレースディレクターが直ちに任命する。詳細はFIS オフィスより公表される。

603.5.2 FIS カレンダーに掲載されているその他すべての競技会については、ジュリーが替わりのコースセッターを指名する。

603.5.3 代理のコースセッターは最初に任命されたコースセッターと同じ資格(必要条件)を持っていなければならない。

603.6 コースセッターの権限

603.6.1 競技地域及び安全対策に関し、変更を加えることを勧告する。

603.6.2 コースセッティングに専念できるよう、十分な人数の補助員を用意してもらう。

603.6.3 器材係長によって必要な器材の供給を受ける。

603.6.4 レースコースの最終仕上げを確認する。

603.7 コースセッターの任務

603.7.1 コースを地形、雪面、参加選手の技術にふさわしくセットするために、コースセッターは、TD、主審、競技委員長、コース係長の立ち会いの下、レース地域の地形のプレ

インスペクションを行う。

603.7.2 コースセッターは、考えられる安全対策とコース整備状況を考慮し、レースコースのセッティングをしなければならない。

603.7.3 全競技会においてコースセッターはルールを順守して旗門をセットしなければならない。

603.7.4 コース上での作業が選手のコースインスペクションの妨げにならないよう完了して準備が整っていなければならない。

603.7.5 コースセッターは、回転及び大回転で、各ランのラップタイムの差が大きくなり過ぎないように注意しなければならない。

603.7.6 コースセッティングは、コースセッターひとりの職務である。コースセッターは、責任を持ってICRのルールを順守し、ジュリーメンバーからのアドバイスを受ける。

滑降及びスーパーGでテクニカルアドバイザーがいる場合は、そのアドバイスも受ける。

603.7.7 コースセッターはすべてのチームキャプテンミーティングに参加し、セットしたコースについて報告しなければならない。

603.8 レース開催地への到着

603.8.1 滑降及びスーパーGについては、必要な場合にコース整備や安全対策を追加できるように遅くとも第1回チームキャプテンミーティング当日の朝までに到着すべきである。

603.8.2 回転及び大回転については、第1回チームキャプテンミーティングの前までとするが、できればその前日に到着すべきである。

604 承認 / 権利及び義務

604.1 役員、メディカルスタッフ及びサービススタッフ

レースコースに入る権利が与えられる人数の割当：

- 選手3名まで コーチ：3名 ドクター：2名* 技術スタッフ：2名
- 選手4~5名 コーチ：4名 ドクター：2名* 技術スタッフ：3名
- 選手6~10名 コーチ：5名 ドクター：2名* 技術スタッフ：4名
- この他公式任務にあるFIS代表者

これらの割当には各国チーム役員（チームキャプテン等）も含まれる。

これらの人物は、アームバンドで確認できるようにしなければならない。

必要であれば、ジュリーはこれらの割当数を減らすことができる。

第220.3条及び第220.5条に基づいて認定された者、公式技術スタッフ及びメディカルスタッフは、開催者からの委任を受けた会場安全責任者（会場係員、警官等）の指示に従わなければならない。

認定されたジャーナリスト、コーチ及びチームキャプテンに関しては、如何なる場合でも、ジュリーの指示に優先権がある。

*)メディカルスタッフにはドクター、理学療法士、救急手当等も含まれる。

604.2 チームキャプテンとコーチ

チームキャプテンとコーチは、クォータに従って開催者からアクレディテーション（認定）を受けなければならない。アクレディテーションにより、次の権利と義務が生じる：

- ジュリーメンバーとなる。
- 競技役員をFIS が任命していない場合、または任命された人物が欠席の場合に競技役員として任命される。
- トレーニングまたは競技中のパスかアームバンドが発行される（またはリフトパスが支給されない場合、費用の払い戻しを受ける）。
- 役職名が表記された、またはコースと記されたパスかアームバンドが発行される。

604.2.1 チームキャプテンとコーチは、ICR またはジュリー決定に従わなければならない。さらに、適切にスポーツマンらしくふるまわなければならない。

604.2.2 チームキャプテンやコーチは、ジュリーメンバーやコースセッターとして引き受けた義務を果たさなければならない。

605 前走者

605.1 開催者には、選手と同様に国際競技規則（ICR）の全規則を満たす最低3名の適切な前走者を用意する義務がある。滑降の場合、前走者はすべてのトレーニングランに参加すべきである。特殊な状況においては、ジュリーは前走者数を増やすことができる。また、ジュリーは、ラン毎に異なる前走者を指名することもできる。

605.2 前走者は、前走者用のスタートナンバー（ビブ）を着用しなければならない。

605.3 指名された前走者には、コースを選手と同様に滑ることができる程度のスキー技術がなければならない。

605.4 前走者は、競技中での出走は許可されない。

605.5 ジュリーが前走者とそのスタート順を決定する。競技の中断後、必要により追加の前走者を滑らせることもできる。

605.6 前走者のタイムを公表することはできない。

605.7 必要であれば要請に応じて、前走者はスノーコンディション、視界及び滑走ラインについて、ジュリーメンバーに報告する。

606.1 スタートナンバー（ビブ）

形、大きさ、文字、取り付け方法を修正してはならない。数字の大きさは最低でも縦8cmで、読み易いものでなければならない。スタートナンバーには、全部が同じマーキングであれば、コマーシャルネームまたはコマーシャルマークをつけることができる。マークの個々の文字または数字は縦10cmを超えてはならない。ハードウェア製品（スキー、ビンディング、ポール、ブーツ、ヘルメット）の名前をつけることはできない。

606.2 競技スーツ

606.2.1 冬季オリンピック、FIS 世界選手権、FIS ワールドカップ、FIS コンチネンタルカップ及びFIS ジュニア世界選手権の滑降、大回転及びスーパーG 競技については、競技スーツにはプロンプ（FIS カン）が付けられていなければならない。

606.2.2 すでに検査を受けたスーツのプロンプが、何らかの理由により無くなっている場合は、暫定スタートが認められる。

606.2.3 この場合、またはレーシングスーツに後から改良を加えた疑いがある場合、あるいは抗議がある場合には、次の手続きに従う：

上述のうち1 つにでも該当するレーシングスーツには、直ちにマークが付けられる。

レース終了時に、TD はその競技スーツを没収し、コントロールのためにFIS へ送らなければならない。

606.2.4 競技用品委員会からスーツコントロールの任命を受けた役員には、現地で再検査を行う権利がある。

606.3 スキーブレーキ(ストッパー)

競技及び公式トレーニングには、スキーブレーキの付いたスキーのみ使用することができる。スキーブレーキを付けない選手のスタートは認めない。

606.4 ヘルメット

全競技会においてすべての競技者及び、前走者は競技用具仕様に準拠したクラッシュヘルメットを着用しなければならない。

606.5 用具規則

詳細については、ICR 第222 条及び、続く記述、そして、FIS 競技用品及び商標掲示の仕様規則を参照のこと。(FIS Specification for Equipment and Commercialmarkings)

606 選手の装備 (競技用具の使用も参照する)

606.5.1 Grass Skiの用具に関する規則

現在、のFIS公式用具

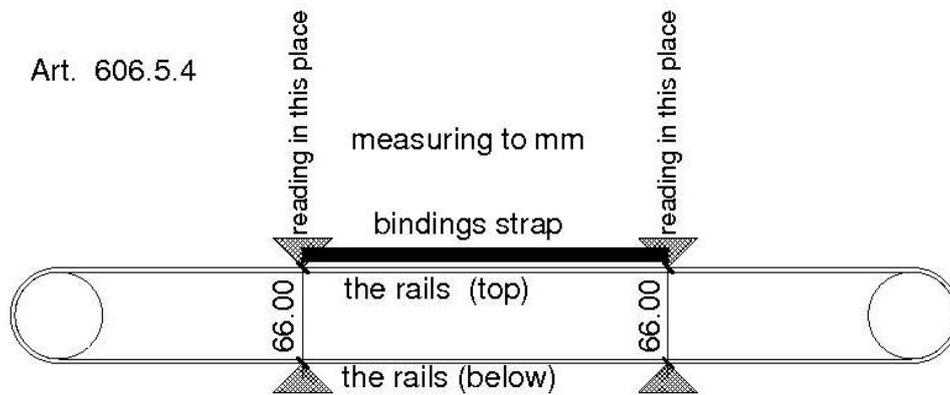
--DLWH+Balekオーストリア SOJAT Czechia AUSUS日本 ESAM日本 ONGTEX台湾PAN SUN台湾 SKIKA台湾

606.5.2 2000年シーズンから、GrasSkiの長さは制限されない。

606.5.3 グラススキーの高さ Grass Skiの最大の高さは12cmとする。

606.5.4. レールの間の距離

ステップ台の前後でレール(外部の外の)の間距離は最大66mmまでとする。



606.5.5.1 ステップ台は長さ: 220mm以上の長さとする

606.5.5.2 Ski長さ

Cat	max	min	girls	boys
Children until 9 years	80 cm		X	X
Children 10 – 13 years	80 cm		X	X
Children 14 years	80 cm		X	
	85 cm			X
Children 15 years		starting 75 cm as Junior		

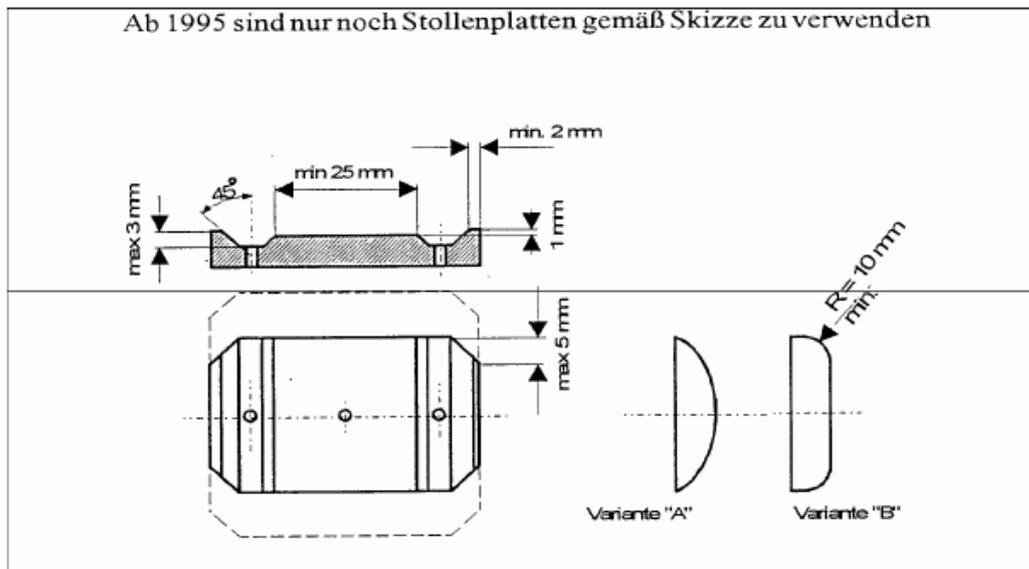
606.5.6 測定の手順:

測定装置の少なくとも2つの器具を用意しなければならない。

ベアリング、同種材料が使用されていないことを確認しなければならない。

(FIS Calendarで発行される、ICR Artによる設備は使用してもよい。 608.5.)

606.5.7 プレート: F I S 規程に準ずる



606.5.8 ガード

Grass Skiはスキーの内側の側面の前後にプロテクターを着けなければならない。

(8211. 認定メーカーの製品が使用できる。サイズはミニマム 50cm²)

606.5.9 スライドローラー

グラススキーエレメントには、同時に、4つのローラーのみ使用可能とする。

606.6 広告

レースとトレーニングの間にすり減る材料と設備における広告はFISガイドラインに従わなければならない。

607 年齢制限

607.1 競技年は、7月1日から翌年6月30日までとする。

国際競技会（チルドレン競技を除く）に出場する選手は、当該カレンダー年終了日（1月1日から12月31日）までに15歳の誕生日を迎えていなければならない。

競技年の始まる7月1日の時点で選手が満15歳になっていなくても、その選手には7月1日から出場する権利がある。

607.2 国際ジュニア競技会に出場可能なのは、当該カレンダー年、若しくはその後に20歳の誕生日を迎える選手に限る。

607.3 国際競技会区分

カテゴリー毎の対象誕生日

Children I (K1) 10-12 Children II (K2) 13.14 Juniors I 15-20

608 チルドレン国際アルペン競技

608.1 FIS の承認

国際チルドレン競技は、FISにより承認され、FISカレンダーに掲載される。

608.2 競技の制限

608.2.1 K1 選手は、国外の国際チルドレンアルペン競技会に2回まで参加できる。
K2 / 1年目の選手は、国外の国際チルドレンアルペン競技会に3回まで参加できる。
K2 / 2年目の選手は、国外の国際チルドレンアルペン競技会に4回まで参加できる。
これらのRulesへのチルドレン委員長によってモニターされる。

608.3 Children 1のレースはGSレースとパラレルレースを基本とする。

608.4 国境地帯

国境地帯近辺でのユース及びチルドレン大会は、近接する地域のスキー連盟のみが参加する限り、FIS に書面で登録する。

608.5 クラブ

様々なクラブからのチームのみが参加するクラブ競技は、開催クラブが書面でその国のスキー連盟へ登録する。

608. 6年齢制限

チルドレンが国際競技会に出場をするために、選手は、当該カレンダー年終了日(1月1日から12月31日)までに11歳の誕生日を迎えていなければならない。競技年の始まる(7月1日)時点で選手が満11歳になっていなくても、その選手には7月1日から出場する権利がある。各選手は、チルドレン大会で、誕生年を公式書類(身分証明書、パスポート)で証明しなくてはならない。誕生年は、レースエントリーで言及されなくてはならない。
対象年齢：第607.3条参照

610 スタート、フィニッシュ、計時、計算

611 技術的設備

611.1 連絡手段

すべての国際競技会において、スタートとフィニッシュの間には複数の連絡手段(電話や無線等)を確保しなければならない。スターターとフィニッシュの間の音声連絡は、固定有線または無線により確保されることが特に勤められる。無線の場合は、OCのその他の職務で使用するものとは別の専用チャンネルでなければならない。

FIS 世界選手権におけるスタートとフィニッシュの連絡手段は、固定有線により確保しなければならない。

611.2 計時機器

FIS カレンダー上のすべての大会では、FIS の認可を受けた電子計時システムを使用しなければならない。これらの認可機器のリストは発行される。このFIS 認可リスト上にない計時機器を使用したレースは、FIS ポイント対象にならない。

計時に関する仕様書や手順の詳細については、別冊のFIS 計時ハンドブック(FIS タイミングブックレット)に記載する。

611.2.1 電気計時

すべての国際競技会、FIS ワールドカップ、FIS コンチネンタルカップ、FIS 競技では、

同期され、かつ電子的に分離された、日時 (Time of Day) で作動する2つの計時システムを使用しなければならない。レース開始前に、一方をシステムA (メインシステム)、もう一方をシステムB (バックアップシステム) として指定する。

すべての日時タイム (Time of day times) は直ちに、少なくとも1/1000 (0.001) 単位まで、印刷用紙に自動的に連続して記録されなければならない。どちらのシステムとも、各選手のスタートタイムとフィニッシュタイムの数理比較によるネットタイム (正味タイム) の計算ができるものでなければならない。各選手の最終リザルトは、コース上の計算ネットタイムを切り捨てて、1/100 (0.01) 単位で表記する。

最終リザルトに使用するタイムは、すべてシステムAからのものでなければならない。システムAに不備がある場合は、第611.3.2.1条で定めた手順に従い、システムBによる計算ネットタイムを使用しなければならない。ネットタイム計算用にシステムAと併用せずに、システムBの日時タイム (Time of Day times) だけを使用してはならない。

すべての大会において、システムAはそれに対応したスタートゲートに接続しなければならない。システムBは、Aとは別の有線を使用し、電子的に分離されたスタートゲートに接続しなければならない。

ケーブル配線や配線図、図解、スタートゲート設備に関する詳細は、FIS 計時ハンドブックを参照すること。すべての計時機器及び技術的設備は、選手にとって危険とならないように設置するか、あるいは保護をつける。

2つの計時システムの同期化は、各滑走のスタート前60分以内に行わなければならない。2つのシステムの同期化は、競技の各滑走中維持しなければならない。いずれの滑走中にも、タイマーを再同期してはならない。

611.2.1.1 スタートゲート

スタートゲートは、システムAとシステムBのスタート入力のトリガー (信号) 用に、各々電子的に分離されたスイッチ接点を持たなければならない。滑走中にスタートゲートの交換が必要になった場合、同じ場所に同一のスタートゲートを設置しなければならない。

611.2.1.2 光電管

すべての大会において、FIS 認可の2つの光電管システムをフィニッシュラインに設置しなければならない。一方をシステムA、もう一方をシステムBに接続する。

スタートゲート及び光電管に関する手順と規定については、FIS 計時ハンドブックに記載されている。

611.2.1.3 スタート時計

滑降、スーパーG、大回転において、円滑な競技進行の補助として、ジュリーが定めたスタートインターバルを固定して、音響効果のあるスタート時計を設置することが望ましい。これらは、全てのレベル0、1と2のレースで義務付けられる。

611.2.2 手動計時

FIS カレンダー上のすべての大会では、電子計時とは全く別の独立したマニュアル (手動)

計時を行わなければならない。適切な手動計時機器として認可を受けられるのは、1 / 100 (0.01) 単位までのタイム表示ができ、スタートとフィニッシュの両方に設置されたストップウォッチ若しくはバッテリー駆動の手持ちサイズのタイマーである。直ちにスタートとフィニッシュで利用できるようにしなければならない。これらの機器は各滑走前に同期させなければならない。できればシステム A、B と同じ日時 (Time of Day) にするのが望ましい。手動タイムの印刷記録は、自動の場合でも手書きの場合でも、直接スタートとフィニッシュで行う事が望ましい。

611.2.3 タイムの掲示

開催者は、計測した全選手のタイムを、常時見聞きできる適切な設備を用意する。

611.2.4 無線計時

FIS 大会レベル3 についてのみ、スタートとフィニッシュの接続に、FIS 認可の無線伝送システムの使用が認められる。詳細は別冊の FIS 計時ハンドブック (FIS タイミングブックレット) を参照。

611.3 計時

611.3.1 電子計時の場合、選手がフィニッシュラインを横切り、光電管の光線を起動させた時点でタイムが計測される。

従って、フィニッシュで転倒した場合、選手の両足がフィニッシュラインを横切らなくても、タイムが計測される。

計測タイムを有効とするには、選手はスキーを付けていても付けていなくても、直ちにフィニッシュラインを完全に横切らなくてはならない。手動計時の場合は、選手のどの部分でも、フィニッシュラインを横切ったときにタイムが計測される。

フィニッシュコントローラーは、フィニッシュラインの通過が正確かを決定する。

611.3.2 "メイン電子計時システム(システム A)が正常に作動しなかった場合は、第611.2.1 条により、電子バックアップシステム(システム B)のリザルトが有効となる。冬季オリンピック、FIS 世界選手権、FIS ワールドカップにおいては、スタートゲート及びフィニッシュの光電管に接続されたプリンター付きで、同期させた電子計時システムの設置が義務付けられる。

スタートとフィニッシュ間のタイミングシステムラインに問題があった場合は、このバックアップシステムにより、1 / 100 秒単位までのタイム計算を認める。システム A、或いはシステム B の (採用している、という意味と思われる) どちらかから選手の計算ネットタイムが取れない場合には、第611.3.2.1 条の計算による手動計時ネットタイムが有効となる。

611.3.2.1 手動計時によるタイムの利用

手動計時によるタイムは、補正計算の後、公式リザルトに使用することができる。

補正計算：タイムが計測できなかった選手の前5 名及び後5 名の手動計時と電気計時との差異を計算する。必要であれば直近の10 名で計算する。

10名の差異の合計を10で割り、その値をタイムが計測できなかった選手の手動計時タイムに適用する補正值とする。

611.3.3 プリンターからの公式計時記録用紙はTDに渡される。これは、レースが公式に承認を受けるまで、または計時やレースリザルトに関する上訴終了まで保管される。

FIS規定の技術計時報告用紙(Technical Timing Report Form)はレースリザルトに添付すること。これはまず計時係長が点検、署名し、次にTDがこれを見直して署名し、これをもってTDがレースを承認したとみなす。

システムA、システムB、及び手動計時からの印刷記録は、すべて競技終了後、または計時やレースリザルトに関する上訴終了後3か月間、OCが保持しなければならない。

611.3.4 タイムの手動入力または修正が可能なプリンター付きの公式計時機器を使用した場合、加えられた変更については、ある種の印(星印、アスタリスク等)をタイムが記載された書類すべてに印刷しなければならない。

611.4 チームの私設計時機器

計時機器の設置のリクエストはチームキャプテンからジュリーへ行わなければならない。この設置の承認に関しては、ジュリーが決定する。冬季オリンピック、世界選手権及びワールドカップでは、開催者の計時機器のみを認める。

612 スタート及びフィニッシュの役員

612.1 スターター (Starter)

スターターは、競技開始前10分以内に、自分の時計とアシスタントスターターの時計を、また電話が無線を用いて計時主任の時計とも合わせなければならない。スターターにはスタート予告やスタート合図を出すだけでなく、これらの合図の間隔を正確に保つことにも責任がある。また、スターターは、アシスタントスターターを選手の監視に当たらせる。

612.2 アシスタントスターター (The Assistant Starter)

アシスタントスターターには、選手を正しい順番でスタートに招集する責任がある。

612.3 スタート記録員 (The Start Recorder)

スタート記録員には、全選手の正確なスタートタイムを記録する責任がある。

612.4 計時主任 (The Chief Timekeeper)

計時主任は、正確な計時に責任を持つ。そして、レースの直前と直後できる限り速やかに、スタート合図員と時計を同期させる。また、できるだけ早く非公式タイムを発表しなければならない(スコアボード等に)。電気計時が故障した場合、計時主任は、スタート審判及びTDと直ちに連絡を取らなければならない。

612.5 計時員 (The Assistant Timekeeper)

2名の計時員は第611.2.2条に従い、ストップウォッチを操作する。1名の計時員は、全選手の記録タイムの完全記録を保存する。

612.6 フィニッシュコントローラー (The Finish Controller)

フィニッシュコントローラーには次の任務がある：

- 最終旗門とフィニッシュの間の監視
- フィニッシュラインを正しく通過したかの監視
- 完走した全選手のフィニッシュ順序の記録

612.7 計算主任 (The Chief of Calculations)

計算主任には、リザルトの迅速かつ正確な計算を行う責任がある。非公式リザルトを直ちに複数作成し、抗議時間の終了後または抗議が処理された後に公式リザルトを発表するよう指揮をとる。

613 スタート

613.1 スタートエリア

スタートエリアは、スタートする選手、選手に付き添うコーチ1名及びスタート役員以外の者が入れないようにクローズしなければならない。また、適切な方法で悪天候から保護しなければならない。コーチ、チームキャプテン、サービススタッフ等が、観客から邪魔されることなく待機中の選手の面倒をみられるような場所を、ロープで仕切って特別に用意しなければならない。スタートの呼び出しを待っている選手用には、適当な待機所を設けなければならない。選手は、スキーに一切のカバーをしない状態でスタートテントに入る。

613.2 スタート台

スタート台は、選手がスタートラインに楽に立つことができ、スタート後すぐにフルスピードを出せるように準備する

スタートは平坦で、12%以上の斜面を必要とします。Technical description:

スロープ:

少なくともプラットホームはサイズ: 2m x 3mを必要とする(手摺りによって横向きで保護されなければならない。、少なくとも2mは覆われているべきです)。

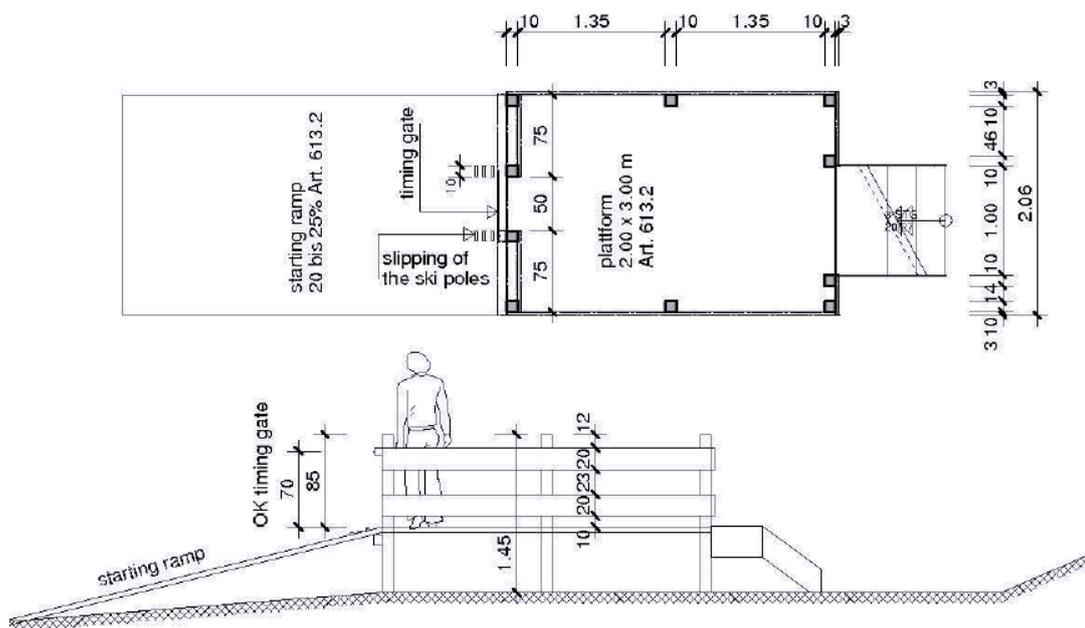
斜面はカーペットで結局カーペットので全長と幅が覆われていなければならない。

斜面への上昇は安全でなければなりません。 斜面は、安定していなければならない。斜面のスターティングゲートの外でスキーストック使用のためのの印を付けなければならない。

また、Ski ポールの滑りを避ける刻み目も重要。

タイミングバーの高さは**女子60cm以下・男子70cm以上とし(2009/10改定)**チルドレン競技では高さを修理しなければならぬ。 スタート台は公式のトレーニングに利用可能でなければならない。

TDはスタート台をチェックし、改善が必要な場合はその指示をしなければならない。



613.3 スタート手順

スタートを有利にする、または邪魔をする可能性のある役員や付添の者が、スタートする選手の背後に立ってはいけない。外的援助はすべて禁止である。スターターの指示で、選手はスタートライン前または指定の位置にポールを突く。スターターがスタート時に選手に触れることはできない。スタートポストを突き放したり他の援助を用いたりすることは禁止である。選手はポールの助けだけを用いてスタートすることができる。

613.4 スタート合図

スタート10秒前に、スターターは選手に「10秒前」と伝える。スタート5秒前から「5、4、3、2、1」とカウントし、それから「Go（ゴー）」のスタート合図を出す（回転競技については第805.3条を参照）。可能であれば、自動音声合図を使用する。スターターは、選手にスタート時計を見えるようにする。

613.5 スタート揭示

スタート計時では、選手の膝下部分がスタートラインを横切った正確な時間を測定する。

613.6 遅延スタート

時間通りにスタート準備ができていない選手には制裁が加えられる。ただし、スタート審判がその遅れを「不可抗力」によるものと判断した場合には、遅延スタートを許可することができる。例えば、選手個人の用具の故障、選手の軽い病気などは「不可抗力」にはならない。疑問が残る場合には、ジュリーはスタートを暫定的に許可することができる。

613.6.1 スタート審判は、ジュリーと協議の後、決断を下す（第613.6.2条及び第613.6.3

条に従う)。また、遅刻によりスタートが認められなかった選手、遅刻にもかかわらずスタートを認められた選手、暫定的にスタートを認められた選手の名前とスタートナンバーを記録しなければならない。

613.6.2 スタートインターバルが一定の場合、遅れた選手はスタート審判に報告した後、ジュリーの決定に従い、一定のインターバルでスタートする。スタート審判は、遅れた選手がいつ（何番の後に）スタートするかジュリーメンバーに伝える。

613.6.3 スタートインターバルが一定でない場合、遅れた選手は第805.3条に従ってスタートする。スタート審判は、遅れた選手がいつ（何番の後に）スタートするかジュリーメンバーに伝える。

613.7 有効スタートと不正スタート

スタートインターバルが一定の競技では、選手はスタート合図でスタートしなければならない。公式スタートタイムの前後5秒以内でスタートすれば、スタートタイムは有効である。この時間内にスタートしない選手は失格となる。スタート審判は、不正スタートをした選手及びスタートルールに違反した選手の氏名とスタートナンバーを、主審に報告しなければならない。

614 コース及び競技

614.1 コース

614.1.1 競技ピステのテクニカルパーツ

スタート及びフィニッシュ設備、テレビタワー、計測機器、スポンサー広告用具等は競技に必要なアイテムである。

614.1.2 コースセッティング

614.1.2.1 補助 Assistance

コースセッターがわざわざポールを取りにいったりせずに、コースセットに集中できるように、ジュリーの定める時間にコースセットを補助しなければならない。

コース器材係長は、次のものを十分用意しなければならない：

- 十分な数の青及び赤のスラロームポール
- 色分けした、相応数のフラッグ
- ハンマー、ドリル、くさび等
- 十分な量の旗門ナンバー
- ポール位置のマーキング用の染料

614.1.2.2 旗門のマーキング

旗門ポールの位置を、全競技中見えるように残る、わかりやすい染料でマークする。

ポールが大きな木製またはプラスチック製ベースを使用して固定されている場合（バケット）には、染料は必要ない。

614.1.2.3 旗門のナンバリング

旗門にはコースの一番上から一番下まで順に番号を付け、その番号は外側のポールに付け

なければならない。外側のポールがない箇所では、ターニングポールにつけられる。スタート及びフィニッシュはこの数には入れない。

614.1.2.4 コースと斜面（地形）のマーキング

滑降及びスーパーG では、コース上に次の様にマーキングすることができる：

- 旗門の前後、滑走ラインの内側と外側に小枝を立てる。
- 松葉やそれに近い物をコース上にまく。
- 旗門間を垂直に、またコース上を水平に染料を使用して、特に斜面変化やジャンプ等に対応する。

614.1.2.5 予備ポール

コース係長には、十分な数の予備ポールを準備し、それらを正しい場所に置く責任を負う。ポールは選手が間違えないように置かなければならない。

614.1.3 ウォームアップコース

適切なウォームアップコースが用意されなければならない。

614.1.4 コースの閉鎖と修正

コースセット開始時よりコースは閉鎖される。閉鎖されたコースの旗門、バナー、マーキング等の修正や、コース構成（ジャンプ、コブ等）の修正が許されるのは Jury のみである。選手は閉鎖された競技コースに入ることはできない。

閉鎖された競技コースに入ることが認められるコーチ、サービススタッフ等は、Jury が決定する。

カメラマン及びカメラチームは、必要な競技書類提出により、閉鎖されたコースエリアに入ることが認められる。それらの合計人数を Jury が制限することができる。Jury が彼らの位置を定め、定められたエリアから出ることはできない。

Jury または組織委員会は、コース整備や維持のために、実際の競技やインスペクションの時間以外にも、選手、コーチ、メディア、サービススタッフに対して、コースやコースの一部を閉鎖することができる。

614.1.5 本質的ではない変更

小さな旗門の位置の変更などの本質的ではないコースの変更では、更にコースインスペクションあるいはトレーニングランの必要はない。詳細はスタート地点でスタートレフェリーによってチームキャプテンや選手に伝えられなければならない。

614.2 競技

614.2.1 旗門の通過

旗門は第661.4.1 条に従って通過しなければならない。

614.2.2 旗門不通過後の継続禁止

選手が旗門を不通過した場合、それ以降の旗門を通過することはできない。

615 フィニッシュ

615.1 フィニッシュエリア

615.1.1 フィニッシュエリアは、フィニッシュに近づいてくる選手からはっきりと見えるものにすべきである。広く、緩やかに傾斜したスムーズなランアウトを備えたものでなくてはならない。

615.1.2 コースに旗門をセットする際は、選手が地形に合った自然なラインを通過してフィニッシュを横切ることができるように、特に注意をすべきである。

615.1.3 フィニッシュエリアは完全に囲わなければならない。許可されていない者が入ることは認められない。

615.1.4 フィニッシュ設備及び囲いは、選手を可能な限り保護できるように設置し、適切な保護手段を用いて安全なものにすべきである。

615.1.5 開催者ははっきりと見える赤いラインで「インナーフィニッシュエリア」を定めなければならない。また、選手がスキーを付けたままで、楽にこのエリアに到達できるようにしなければならない。

615.1.6 レースを終了した選手に対し、実際のフィニッシュとは別の特別エリアを用意する。このエリアでは、プレス（活字、ラジオ、テレビ、フィルム）の取材ができるようにすべきである。

615.1.7 選手は、レース中に使用したすべての競技用品と共に、オフィシャル退場ゲートを通過してフィニッシュエリアから立ち去らなければならない。

615.2 フィニッシュラインとそのマーキング

フィニッシュラインは、「フィニッシュ」と書かれた水平バナーでつながれた2本の支柱または垂直バナーでマークする。フィニッシュの最低幅は、滑降及びスーパーGでは15m、回転及び大回転では10mなければならない。例外として、 Jury が技術的または地形的理由により、この幅を狭くすることができる。フィニッシュの幅は、2本の支柱またはバナーの間の距離とみなされる。計時機器の設置に使用する台も、最低これだけ離さなければならない。計時機器の台は通常、フィニッシュポストまたはバナーの後ろ斜面側に設置することができる。また、フィニッシュラインは塗料ではっきりと水平にマークしなければならない。

615.3 フィニッシュラインの通過とタイムの記録

フィニッシュラインは、次のように横切らなければならない：

- 両方のスキーで。または、
- 片方のスキーで。または、
- フィニッシュエリア直前で転倒した場合、両足。この場合、選手の身体または用具のどこかの部分が、計時システムをストップした時にタイムが計測される。

615.4 報告

フィニッシュ審判は、レースまたは公式トレーニング終了後直ちに、主審に報告しなければならない。

616 マイク

スタート及びフィニッシュエリア内、また、囲われたエリア内で、開催者の同意なしに設置したマイク（“移動取材用マイク”やいわゆる“つり下げマイク”、カメラやその他の技術装置にセットされたマイク）を使用することは、レース中だけでなくトレーニング中も禁止である。

617 リザルトの計算及び発表

617.1 非公式タイム

タイムキーパーが計測したタイムは、非公式タイムとみなす。非公式タイムはスコアボードに掲示される。スコアボードはフィニッシュした選手用エリア及びプレスエリアから見やすいものにする。非公式タイムは観客にもスピーカーで可能な限り、発表すべきである。

617.2 非公式タイム及び失格の発表

617.2.1 レース終了後できるだけ早く、非公式タイム及び失格を公式掲示板とフィニッシュにて発表する。抗議の制限時間は、この発表の時点からカウントする。

617.2.2 フィニッシュとスタートにおける非公式タイムの発表は、文書及び口頭による失格の発表と合わせて、公式掲示板での発表に替えることもできる。この場合、抗議をフィニッシュで主審に口頭で直ちに行うか、それとも失格の発表後遅くとも15分以内に行うか、また、これ以降に提出された抗議を無効とみなすことを決定することができる。チームキャプテンには事前に連絡しなければならない。

617.3 公式リザルト

617.3.1 リザルトは、正式に記録された選手の公式タイムにより決定される。

617.3.2 複合のリザルトは、複合競技の各種目それぞれのレースタイムを加算して計算する。（あるいはレースポイントを加算する）

617.3.3 複数の選手が同タイムまたは同ポイントとなった場合、スタートの遅かった方の選手を公式リザルトリストでは先に掲載する。

617.3.4 公式リザルトリストには、次の事項を記載しなければならない：

- 開催クラブまたは連盟の名称
- 大会名称、開催地、種目、カテゴリー（男子または女子）
- レース開催日
- コース名、スタート及びフィニッシュの標高、標高差、FIS コース公認番号、滑降及びスーパー-G の場合はコース全長などの、すべてのテクニカルデータ
- ジュリーメンバーの氏名及び国名
- 各ラン毎のコースセッター及び前走者の氏名と国名。旗門数（SL,GSとSGの場合はカッコの中に方向転換数も記載）とスタート時間
- 天候、コースのスノーコンディション、スタート及びフィニッシュエリアのレース開始時間の気温
- 順位、スタートナンバー、コードナンバー、氏名、国名（できれば所属クラブ）、タイム、レースポイントなどの、選手に関するすべての詳細

- 各ラン毎の棄権、途中棄権、失格の選手のスタートナンバー、コードナンバー、氏名、
国名
- 公式サービス企業名（計時企業、コンピューターサービス等）
- コーデックスとF値
- ペナルティー計算シート
- 技術代表の署名

617.3.5 国名は、アルファベット大文字3字のFISコードで記載しなければならない（FISブリテンまたはFISウェブサイトを参照）。

618 FISレースポイント

618.1 レースポイントの計算のための公式は勝者その他のすべての分類された競争相手の時差のポイントへの翻訳を可能にする。

618.2 レースポイントの計算のための公式は以下とする：

$$-P=F \times TX \div T_o \quad F$$

- P: レースポイント
- To: ラップタイム
- Tx: 選手タイム

618.2.1、F値はアルペンの1/2とする。

618.2.2 レースペナルティ

世界選手権0.00 ジュニア世界選手権6.00 ワールドカップ0.00

FIS Race3.00 ジュニアレース9.00。

618.3 F値は（スプリントDownhill、Slalom、Giant Slalom、スーパーG）FISによってシーズン毎指定される

618.4 FISポイントに関するルールのために、リファレンスが作成される。

（ICRの統合パート）

618.5 FISポイント

618.5.1 アルペンCompetitorsのClassificationのためにSub-委員会によって定められた規則に従って、FISに登録された競争相手のFISポイントは確立される。

618.5.2 ポイントによる、リストからなるシーディングは競技規則の一部であり、毎年更新される。

618.6 FISポイントの使用

FISポイントは特に以下に使用される。

- レースにおける組分けとドロウの基礎
- レースペナルティー(レースポイントに関する)を確立する。
- 負傷状態、プロの義務などのため刑罰の確立。
- スーパーコンバインド競技はカテゴリーポイントを確立し、スピード系競技(DHかSG)もSuper Combined FISポイントが配分される（618.6.1Definition）

選手は、FISポイントを受けるためには両種目（2本）完走しなければならない。

ドローには、Super Combinedポイントを使用する。

618.7 FISレースへの参加

618.7.1 FIS Calendar競争に参加するNational Ski Associationsの割当ては以下とする。

618.7.1.1 FIS世界スキー選手権

国際オリンピック委員会の規則とFIS World Ski選手権のOrganisationによる。

618.7.1.2 FISワールドカップ、FISコンチネンタルCups、およびFIS Races Accordingが140名以上となるとき、女子レース618.7.1.3Quota Ruleが使用される。

618.7.1.4 特別枠

FIS Councilはある世界の国と地域のための特別枠を認めることができる。

National Ski Associationsは秋のミーティングの前に特定の要求をFISに提出。

南半球は春の ミーティング。

618.7.1.5 各国協会へのFISポイント割当（FISポイントのRulesに従った詳細）

618.7.2 F I S ポイントは各National Ski Associationによって計算される。

資格割当ては北半球のシーズン開始時に発表され、各国に最も有利な条件を使用することができる（FISポイントのRules規定による）

618.7.3 競技者登録数はその数を規制しない。

（100名以上も可とし、100名未満の場合は全ての登録を可能とする）

618.8 登録

・メンバーセクション <http://www.fis-ski.com/> Loginを通してFISウェブサイトでFOU Systemを使用することによって、競技者登録を行う。（F I S よりパスワード発行）

このシステムにより登録の変更、更新は行われ FIS Codesは自動的に分配される。

登録は各National Ski AssociationよりFIS競技者登録宣誓書にサインした選手のみ行うことができる。。

618.9 F I S 競技者登録費用

618.9.1登録

競技者登録費用はCHF50.00とする（2009 / 10改定）

618.9.1.1 日付:

4月30日までの登録は**CHF50.00** 5月1日以降の登録費用ははCHF100.00とする。

618.9.2 登録費の還付。

シーズン中の引退、又はNational Ski Associationからの不正確な登録であってもFISは登録費の還付を行わない。

618.10 FISポイントリスト。

No1 5月1日 No2 6月/7月 No3 7月 No4 8月 No5 10月

619 表彰式

レース終了前や技術代表が了承する前に、表彰式を開催することはできない。開催者には、

この前に予想される勝者を発表する権利がある。この発表は非公式であり、公式表彰式とは別の場所で行われる。

620 スタート

世界選手権、FIS ワールドカップ及びFIS コンチネンタルカップでは、特別規定を設けることができる。

621 グループドロー及びスタート順

621.1 参加選手のクラス分けはジュリーが行う。

621.2 FIS の作成したFIS ポイントリストが、選手のクラス分けに使用される。最新ポイントリストに記載されていない選手は、ポイントのない選手グループに入れられる。

621.3 全アルペン競技の選手のスタート順は、選手のFIS ポイント（滑降、回転、大回転、スーパーG、スーパーコンバインド）により決定される。国籍に関係なく、参加選手中上位15名までの第1グループがドローされる。15位に同ポイントの選手が複数いる場合は、第1グループの人数をこれに応じて増やすことができる。

残りの選手は全員、FIS ポイント順にスタートする。FIS ポイントのない選手は、全員最終グループでドローされる。参加選手上位15名のうちの1名とその次の選手とのポイント差が大きすぎる場合、ジュリーが第1グループの人数を決定しなければならない。残りはFIS ポイント順にスタートする。

621.3.1 チルドレン競技（608.6条を参照）

621.3.2 国内選手権でのスタート順

第621.3条の代案として、国内選手権については、次のスタートナンバードロー/選択をジュリーが許可することができる：回転と大回転：有効なFIS ポイントによる上位15名の第1グループを、2つのグループに分ける（1 7、8 15）。それぞれのグループの中で、ダブルドローをしてスタートナンバーをドローする。滑降、スーパーGとスーパーコンバインド：有効なFIS ポイントによる上位15名の第1グループが、1番から30番までの間のスタートナンバーを選択する。

1番から30番のうち残ったスタートナンバーを、有効FIS ポイントによる上位30名の残りの選手でドローする。その他の選手は、FIS ポイント順にスタートする。

621.4 FIS ポイントのない選手が多すぎる場合、ジュリーはその選手を数グループに分けなければならない。この場合、各国はどのグループに選手を入れたいかを発表する。

各グループ別々にドローされる。ジュリーはできる限り、滑降の公式トレーニング中の観察を考慮に入れ、ポイントなしのグループへの各国選手を公平に振り分けなければならない。ルールとして、ポイントなしの選手をエントリーした国は、選手1名をポイントなしの選手の第1グループに入れる。

621.5 ジュリーには、コース状況を考慮してスタート順を変更する権利がある。

621.6 ドローは、レース前日に行わなければならない。ナイターレースの場合は、レース当日の午前中に行わなければならない。

621.7 滑降トレーニングの第1 グループは、毎日ドロウしなければならない。

621.8 ドロウ（第1 グループ及びFIS ポイントなしのグループ）はチームキャプテンミーティングで行わなければならない。ダブルドロウを推奨する：スタート順と選手名の同時ドロウ。

621.9 ジュリーは選手の補助によるドロウを許可できる。ドロウが行われる前のチームキャプテンミーティングにおいて、各国代表はチームエントリーに署名しなければならない。

621.10 特殊な状況でのスタート順

特殊な状況では、ジュリーは滑降、大回転、スーパーG（降雨時など）のスタート順を変更することができる。事前に指名された最低6名の選手グループが、1番の前にスタートする。この6名の選手は、スタートリストの最後20%に含まれる選手からドロウによって選出する。この選手は、スタートナンバーとは逆順でスタートする。

621.11 2 本目のスタート順

621.11.1 2本に分けて行われる競技では、2本目のスタート順は30位までを除く1本目のリザルトリストで決定する。

621.11.2 30位までのスタート順は次の通り：

リザルトリストの 30位： 1番スタート 29位： 2番スタート
28位： 3番スタート 27位： 4番スタート
1位： 30番スタート

31位以下は1本目のリザルトリストに従う。

30位の選手が複数の場合、スタートナンバーの最も小さい選手が最初にスタートする。

621.10.2.1 スーパーコンバインド

2 本目のスタート順

1本目のリザルト(WC規則Art9.1.3を見る)の全選手リバースとできる。

621.11.3 FIS レースにおける2 本目のスタート順

ジュリーは1本目のスタートの1時間前までに、リバース順を15位の選手までに縮小するかどうか決める権利を有する。

621.11.4 2 本目のスタートリストは、適切な時間までに印刷され、2 本目のスタートまでに役員に配布できるようにしなくてはならない。

621.12 ダブルエントリー

選手がある大会にエントリーしてドロウも済ませた後に、別の大会に出場するためにこの大会を離れた場合、この大会に戻って出場することはできない。適切な処置を行うため、FIS 事務局はすべてのダブルエントリーについてFIS 理事会に照会する。

622 スタートインターバル

622.1 通常インターバル

滑降、大回転、スーパーG では、選手は基本的に60秒の通常インターバルでスタートする。回転については、第805.1条を参照する。ジュリーは異なるスタートインターバルを定め

ることができる。

622.2 特別スタートインターバル

滑降、スーパーG、必要であれば大回転のスタートインターバルは、次の条件の下で変更することができる：

622.2.1 時間の延長は、コース全体のうち興味深い部分のテレビ放映のために行われなければならない。

622.2.2 スタートインターバルはジュリーが決定することができる。

622.2.3 最少スタートインターバルは、滑降及びスーパーG で40 秒、大回転で30 秒とする。

622.2.4 第622.2.2 条及び第622.2.3 条以外の例外は、FIS 理事会のみ決定する事ができる（ワールドカップ：ワールドカップルールに従う）。第2走行のための621.10スタート順

623 再レース

623.1 必要条件

623.1.1 レース中に妨害を受けた選手は、妨害発生後直ちに停止し、ジュリーメンバーに再レースを申し出なければならない。この申し出は、妨害を受けた選手のチームキャプテンが行うこともできる。選手はフィニッシュまでコースの端を移動する。

623.1.2 特別な状況では（旗門がない場合や計時システムの不良、その他の技術的不具合など）、ジュリーが再レースを命じることもできる。

623.1.3 選手がイエローフラッグにより止められた場合、ジュリーの判断を前提に再レースをする権利がある。ジュリーは、滑降の試合またはトレーニングランのリストから、最後の選手よりも前に再レースが行われる事を念頭に置かなければならない。（第705.2 条、第705.3 条参照）

623.2 妨害の根拠

623.2.1 役員、観客、動物、その他の障害物によるコース遮断

623.2.2 転倒した選手がすぐにコースを空けなかった場合のコース遮断

623.2.3 前の選手が落としたスキーポールやスキー等のコース上の障害物

623.2.4 選手を妨害する救急活動

623.2.5 前の選手が倒した場合、或いはすぐに元通りにしなかったため、旗門がない状態

623.2.6 選手の意志やコントロールではカバーできないような、その他の類似の出来事で、明らかに減速せざるを得なかったり、滑走ラインが長くなったりして、タイムに影響を及ぼすことになる出来事。

623.2.7 「イエローゾーン」内の役員による滑降の中断（第623.1.3 条参照）

623.3 再レースの正当性

623.3.1 主審や他のジュリーメンバーが、適切な役員に直ちに質問できない場合や、再レースの正当性を判断できない場合は、競技の遅延を避けるため、暫定的な再レースを許可する事ができる。この再レースは、ジュリーが認めた場合のみ有効となる。

623.3.2 選手に再レースを認めるべき出来事の前に、すでに選手が失格となっていた場合、再レースは無効となる。

623.3.3 暫定的または確定的に認められた再レースのタイムが、妨害を受けた時のタイムより遅くても、再レースのタイムが有効である。

623.4 再レースのスタート時間

623.4.1 スタートインターバルが一定の場合、選手はスタート審判に報告した後、スタート審判の決定に従って、一定インターバルでスタートすることができる。

623.4.2 スタートインターバルが一定でない場合は、第805.3条に従う。

624 レースまたはトレーニングの中断

中断されたレースが同日に終了できない場合そのレースは中止されたと扱われる。

624.1 ジュリーによる中断

624.1.1 全選手に対しより公平で一定したコースを提供、またはコース整備を行うため。

624.1.2 スノーコンディション及び天候の不安定または不都合のため。

624.1.2.1 コース整備終了次第、また、天候や雪の状態が、適切な競技が可能な状態に変わり次第、レースを再開する。

624.1.2.2 同一の理由により繰り返し中断が命じられる場合は、レースを中止すべきである。滑降、スーパーG、スラローム、大回転の1本を終了するのに、4時間以上かけることはできない。

624.2 短時間の中断

各ジュリーメンバーには、旗門審判員の要請に基づいて、レースの短時間の中断を命じる権利がある。

625 競技の中止

625.1 ジュリーによる中止

- 選手が妨害的な外的影響を受ける場合
- 同一でない状況の発生或いは、レースの適切な運営がもはや保証できない場合

626 報告書

すべての競技の中断と中止に関して（624条と625条）、詳細に渡る報告書をFISと開催国連盟に提出しなければならない。報告書には中止された競技がFISポイントの対象になるかどうかについて、確実な根拠のある忠告を記載しなければならない。

627 認められないスタート

次の事項に当てはまる選手には、FISスキー競技会におけるスタートを一切認めない：

627.1 卑猥な名称やシンボルのついた衣類や用品を着用、または使用（第206.7条）

スタートエリアでスポーツマンらしからぬふるまいをする。（第205.5条、第223.1.1条）。

627.2 用品（第222条）、及びコマーシャルマーケティング（第207条）に関するFISルール違反。

627.3 FISの要求する医療検査（第221.2条）を受けることを拒否する。

- 627.4 選手用に閉鎖されたコースでトレーニングをする(第614.1.4条)。
- 627.5 滑降のトレーニングにおいて、計時トレーニングに一度も参加しない(第704.8.3条)。
- 627.6 競技用品仕様になかったクラッシュヘルメットを着用しない(第606.4)、またはスキーブレーキのついたスキーを着用しない(第606.3条)。
- 627.7 一本目の失格(DSQ)、棄権(DNS)、途中棄権(DNF)者。

628 ペナルティー

選手が次の行為をした場合、ジュリーからペナルティーが科される。

- 628.1 用品上の広告に関するルール(第207条)に違反する。
- 628.2 認められていない方法でスタートナンバーを変更する(第606.1条)。
- 628.3 ルールに従った公式スタートナンバーを着用しない、または携帯しない(第704.6、804.1、904、1004.1条)。
- 628.4 旗門を通過して滑る、またはコース上の旗門通過に必要なターンと平行した形でターンの練習をする(第904条)削除。
- 628.5 時間通りにスタートする準備ができていない、または不正スタートをする(第613.6、613.7、805.3.1、805.4、1226.3条)。
- 628.6 スタートルールに違反する、またはルール(第613.3条)で認められていない方法でスタートする。
- 628.7 正当ではないと判明する再レースの要求をする(第623.3.2条)。
- 628.8 旗門不通過後にレースを続行する(第614.2.2条)。
- 628.9 第615.3条に従ったフィニッシュ通過ができない。
- 628.10 レッドラインを通過する前にスキーを外す(第206.5条)。
- 628.11 レースで使用したすべての競技用品と共に、公式出口を通過してフィニッシュエリアから立ち去ることをしない(第615.1.7条)。
- 628.12 公式セレモニーにスキーを持ち込む(第206.6条)。
- 628.13 競技中に外部から助けを得る(第661.3条)。
- 628.14 実際にスタートし、のちにジュリーによって627条に違反していると判断された。

629 失格

次に当てはまる選手は失格となる：

- 629.1 偽ってレースに出場する。
- 629.2 人や所有物を危険にさらす。または実際に怪我を負わせる、または破損する。
- 629.3 正しい旗門通過をしない(第661.4条)又は制限時間内にスタートしない(613.7条)

640 抗議

- 640.1 ジュリーは、物的証拠に基づいた抗議のみ受け付けなければならない。
- 640.2 ジュリーは、ジュリーの先の決定に影響を与える新たな証拠が存在したときのみその決定を再審査する
- 640.3 641条に基づく抗議あるいは647.11条に基づく上訴以外の、すべてのジュリー決定

は最終決定となる

641 抗議の種類

641.1 選手の出場または選手の競技用品に対して

641.2 コースまたはそのコンディションに対して

641.3 競技中、他の選手または役員に対して

641.4 失格に対して

641.5 計時に対して

641.6 ジュリーの指示に対して

642 提出場所

各種の抗議は、次のように提出する：

642.1 第641.1～641.6 条による抗議は、公式掲示板に定められている場所、またはチームキャプテンミーティングで発表された場所

643 提出期限

643.1 選手の出場に対して：

- ドロー前

643.2 コースまたはそのコンディションに対して：

- レース開始60 分前まで

643.3 競技中の他の選手、選手の用具、役員の不正行為に対して：

- 最後の選手のフィニッシュ通過後15 分以内

643.4 失格に対して：

- 失格の発表後15 分以内

643.5 計時に対して：

- 非公式リザルトの発表後15 分以内

643.6 すべてのジュリーの指示に対して

- 直ちに、また、第643.4 条による抗議提出期限前

644 抗議の方法

644.1 抗議は、ルールとして、書面で提出する。

644.2 例外として、第641.3、641.4、641.5 条による抗議は、口頭でも可能である(第617.2.2 条)。

644.3 抗議には詳細な理由を記し、実証されなくてはならない。証拠を示し、証拠物件を添付しなければならない。

644.4 抗議の提出の際、100 スイスフランまたは有効通貨の相当額をデポジットとして払わなければならない。このデポジットは、その抗議が受け入れられれば返却される。

そうでない場合は、FIS の口座に入れられ、普及活動に当てられる。

644.5 ジュリーの決定が発表される前に、抗議側が抗議撤回することができる。

この場合、デポジットを返却しなければならない。ただし、抗議の撤回は、ジュリーまた

はジュリーメンバーが時間的理由により、例えば「条件付き」決定などの中間決定を出した場合には、不可能となる。

644.6 時間通りに提出されなかった抗議、またはデポジットなしで提出された抗議は、考慮されない。

645 権限

次の者に抗議を提出する権限がある：

- 各国スキー連盟
- コーチ
- チームキャプテン（順序だけ）

646 ジュリーによる抗議の処理

646.1 ジュリーは場所と時間を決め、抗議を処理するために集まる。また、そのことは公表される。

646.2 失格（第661.4条）に対する抗議を処理する際、旗門審判員、必要であれば、近くの連続した旗門審判員、その他の関係役員、失格となった選手、抗議したチームキャプテンやコーチを招集する。また、ビデオテープ、写真、フィルムといった請求された証拠についてもチェックすべきである。

646.3 抗議に関する投票には、ジュリーメンバーのみが出席する。TD が議事を進行する。議事録をとり、投票権を持つジュリーメンバー全員が署名する。決定には、出席したジュリーメンバーだけでなく、投票権を持つジュリーメンバー全員の過半数を必要とする。投票が賛否同数の場合、TD の票が決定する。証拠品の自由な評価の原則を維持する。決定の根拠となるルールは、原則維持を考慮した公平な進行が保証されるように適用、解釈する。

646.4 決定は、評決後直ちに、公表時間を記載して公式掲示板にて公表される。

647 上訴権

647.1 上訴

647.1.1 上訴は、次に対して行うことができる：

- 224.11 条による罰金に関する、ジュリーの決定に対して
- レース中止（第625条）についてのジュリーの決定に対して
- 中止されたレースが、FIS ポイント計算に用いられるべきかどうかのジュリーの提案に対して
- 公式リザルトリストに対して。明らかかつ立証された計算ミスに対してのみ可能。

647.1.2 上訴はFIS に提出されなければならない。

647.1.3 提出期限

647.1.3.1 ジュリー決定に対する上訴は、公表後24時間以内にそれぞれの上訴委員会に提出する。

647.1.3.2 ジュリーの決定能力を超えた公式リザルトリストに対する上訴は、レース当日を含め30日以内にFIS 事務局を通して委員会へ提出する。

647.1.4 上訴に関する決定は以下が下す：

- 上訴コミッション
- FIS 裁判所

647.2 延期の効果

提出された証明（抗議、上訴）は、上訴の延期理由とはならない。

647.3 提出

すべての証明は、文書により立証しなければならない。これには証言及び証拠も含むこと。

提出の遅すぎた証明を、FIS は断らなければならない。

650 コース公認に関するルール

650.1 概要

すべての大会は、FIS の承認を受けたコースでのみ開催することができる。

要請により、例外を承認することもある。

テクニカルデータの例外と逸脱は、FIS 理事会のみ承認することができる。

各国連盟及びアルペンコース小委員会が提案をする。承認された例外は、承認を受けた日から取り消されるまで有効である。

650.2 提出

コース公認申請は、各国連盟を通じてアルペンコース小委員会宛に提出する。

650.3 受取人

申請の際には以下の書類を4部ずつ作成し、インスペクター及び下記へ1部ずつ送付または渡さなければならない：

650.3.1 アルペンコース小委員会委員長

650.3.2 公認を申請する各国連盟

650.3.3 開催クラブ

650.3.4 調査担当のインスペクター

650.4 添付書類

コース公認申請には、次の6点の書類を添付しなければならない：

650.4.1 次の事項を含むコースの説明：

- コース名称
- コースの地理的位置
- スタート地点：メートル表示による海拔標高
- フィニッシュ地点：メートル表示による海拔標高
- 標高差：メートル表示
- コースの表面全長：メートル表示
- 平均斜度、最大斜度、最少斜度（新度法または%表示）
- 負傷選手のコース外への輸送手段
- コース用の水源

- ヘリコプターの着陸可能場所
- 人工降雪設備
- スタート/フィニッシュエリアへのアクセス設備の説明。また、索道設備の説明とその1時間当たりの輸送能力(人数)
- スタート/フィニッシュエリアの説明：地形、様子の詳細、ジャーナリスト、ラジオ/テレビ解説者、観客用の設備の詳細、スタート及びフィニッシュでの選手の待機施設の詳細を含む。
- セーフティネットを必要とする場所の説明
- スピーカーの設置場所
- テクニカルサービスやサービススタッフ等のための補助コースが用意できるかの説明
- 最寄りの病院への搬送距離：キロメートル表示
- 通信システムの説明と使用可能回線数。できれば次の事項を記した回線図を添付する：
 - ・ 埋設ケーブル
 - ・ 常設空中ケーブル
 - ・ 臨時空中ケーブル
 - ・ 回線のクロスセクション
 - ・ コース沿いのコンセント数
 - ・ フィニッシュエリアとレースオフィス間のコネクション
 - ・ フィニッシュエリアとプレスセンター間のコネクション
 - ・ 利用可能な無線機器に関する詳細
 - ・ スタートエリアとフィニッシュエリア間のコネクション
- 連絡先住所、電話番号、e mail アドレス、ファックス番号

650.4.2 地図：最低縮尺25000/1、等高線があるもの。コースを図示する。

650.4.3 断面図：縮尺5000/1、コースの標高差と全長を示すもの(同縮尺の等高線)。

650.4.4 コース積雪量の統計記録(冬季オリンピック及びFIS 世界選手権では過去10年間その他のレースでは過去5年間の記録)。

650.4.5 コースがマークされた大きな全体写真。事業綱領からの模写ではなく、本物の写真でなければならない。写真のサイズは、18×24cm 以上とする。写真はできれば、反対側の斜面から撮影するべきである。これが不可能な場合は、斜めからの空撮写真が同様の効果をもたらす。

650.4.6 コース全体のスケッチ：縮尺5000/1、リフトタワー、樹木群、急斜面部分、カーブ、コースの交差点等と、標高、断面図、スキー場名称等に関する情報などのデータとすべての詳細を記載する。このスケッチの目的は主として、コースの実状、計画されているコースの改善、セーフティネットの位置等に関して要約した情報を、インスペクターに提供することである。

650.5 インスペクターの任命

コース小委員会委員長が公認申請を検討し、コースの調査を行うインスペクターを任命する。滑降コースのインスペクターは、第1 回目の公認申請する国に所属する人物であってはならない。エントリーリーグで使用される滑降コースのインスペクターも第1 回目の公認申請をする国以外の者であることが望ましい。

公認を申請するコースは、第701、801、901、1001、1102、1103 条にある技術的条件を満たしていなければならない。

滑降、大回転、スーパー-G のコース、緊急用コース、道路、または競技コース自体には、競技中に負傷した選手を救出するために、十分なスペースを用意しなければならない。

650.6 公認手続き

650.6.1 申請者

必要書類4 部ずつの準備ができ次第、申請クラブは所属国連盟を通じてコース小委員会委員長へ公認申請を送付するか、所属国連盟の同意を得た上で、現地視察中のインスペクターに渡す。この場合、インスペクターがコピーを所定の配布先に配布する。

同時に申請者は150 スイスフラン相当額をFIS 事務局に支払わなければならない。

この金額で管理費用を負担する。インスペクターの旅費及び滞在費は、申請者（クラブ）が直接インスペクターに支払わなければならない。インスペクターの自宅から現地までの往復旅費は次のように計算する：

- 管理費用として、移動1 日あたり100 スイスフラン
- 鉄道運賃：ファーストクラス
- 自家用車：1 キロメートル当たり0.70 スイスフラン
- 航空運賃：エコノミー

650.6.2 各国連盟

申請者が準備した公認申請は、その所属国連盟が是認し、それからコース小委員会委員長へ送らなければならない。インスペクターが小規模なコース改善しか要求しなかった場合は、これらの改善が完了した後のコース状況を、その年の10月31 日までにインスペクターへ報告しなければならない。さらに大規模な作業が必要な場合は、再調査が必要かどうかをインスペクターが決定する。FIS の基準を満たしていないと判断され、その年の10 月31 日*)までに公認されなかったコースは、そのシーズン競技に使用することはできない。これらの競技は、FIS カレンダーから削除される。

*) = 南半球では4 月30 日まで

650.6.3 インスペクター

コース小委員会委員長は、各国連盟を通じて申請者（クラブ）からのコース公認申請を受け取った後、インスペクターを任命する。インスペクターは視察の時期について直ちに申請者に連絡を取り、その連絡文書のコピーを当該国連盟に送付する。インスペクターは現地調査のために、公認申請書類の複写4 部を受け取る。

調査後、インスペクターは視察報告書を作成し、必要な改善箇所をコースプラン上に赤で

マークする。その他すべての書類をチェックした後、インスペクターは複写3部をアルペンコース小委員会委員長に送付する。委員長は、それらを精査、承認し、次にコピーを送付する：

- 当該国連盟
- 申請者
- 1部はインスペクターの控えとして手元に残す

これは特に、安全規制とセーフティネットの配置について当てはまるものである。

650.6.4 FIS コース公認証の発行

視察報告書が肯定的なもので、それ以上コースに手を加える必要がない場合は、コース小委員会は申請者（クラブ）に公認証の原本を、当該国連盟とFISにはそのコピーを送付する。公認証にはコース名、コースの種類、テクニカルデータが記載されている。公認証の登録番号は、公認コースの総数、公認証発行年、その年に登録されたコース数を示す。有効期限も示されている。公認証は、手数料が支払われたもののみ発行される。

650.6.5 申請の有効期限

要求された手直しが視察後5年以内に完了しなかった場合、公認は与えられず、そのコース（ピステ）は公認申請中のリストから削除される。それでも公認を希望する場合には、新規申請が必要となる。

650.6.6 FIS 公認証の有効期限

650.6.6.1 滑降及びスーパーG

滑降及びスーパーGのコース公認証は発行日より5年間有効である。それ以後は、再公認を受けなければならない。

650.6.6.2 回転及び大回転

回転、大回転のコース公認証は発行日より10年間有効である。それ以後は再公認を受けなければならない。

650.6.6.3 全種目

コース公認証は、自然/人工的变化や、規定または技術的条件の変更がない限り、有効である（650.6.6.1条および650.6.6.2条の期間内であれば）。

自然変化としては、

- 侵食、地滑り、または地面の植物の過成長が考えられる。

人工的变化としては、

- 建造物、リフトの架設が考えられる。
- シェルター、広場、駐車場、道路、通路等の架設が考えられる。

650.6.7 報告義務

コース公認を申し出た各国連盟は、要求されていた改善が実施された場合、コース小委員会に報告しなければならない。

650.6.8 公表

FIS は、すべての公認コースを公表する。

650.6.9 公認と降雨や天候などの特別な条件との関係

開催者はFIS によるコース公認に全面的に依存するだけではなく、一般の積雨状況や気象状況にも注意をすべきである。例えば、FIS が公認した公認コースであっても、コース状態が悪かったり、濃霧、大雪、嵐、雨などの場合、滑降レースの実施に適していないこともあり得る。

655 人工照明下での競技会

655.1 人工照明下での競技は認められる。

655.2 照明は、次の仕様を満たさなければならない：

655.2.1 照明の明るさは、コースのどの地点においても、コースに平行に測定されて、80 ルクス以下となつてはならない。

655.2.2 投光機はその光がコースの地形を変えることのないよう、設置されなければならない。光は選手に、実際の地形の状況を照らようにしなければならず、奥行きや深さに対する感覚や正確さを変えるものであってはならない。

655.2.3 光は選手の影を滑走ライン上に投影してはならず、また選手の目をくらますようにしてはならない。

655.3 TD 及びジュリーは、前もって照明がルールに合致しているかどうかを確認しなければならない。

655.4 TD は照明の質に関する補助レポートを提出しなければならない。

660 旗門審判員への指示

661 旗門通過のコントロール

661.1 各旗門審判員は次の項目のある旗門記録票（チェックカード）及び、必要に応じて対候性に長けたカバーを受け取る：

旗門審判員の氏名

受け持ち旗門の番号及び、担当する滑走の指定。（1 本目か2 本目か）

661.2 選手が旗門（あるいはゲートマーカー）を第661.4 条に従い正確に通過しなかった場合、旗門審判員は直ちに旗門記録票に次のことを記入する： 選手のスタート（ビブ）番号、不通過のあった旗門番号。

661.2.1 不通過の状態のスケッチ（スケッチ図は不可欠）。

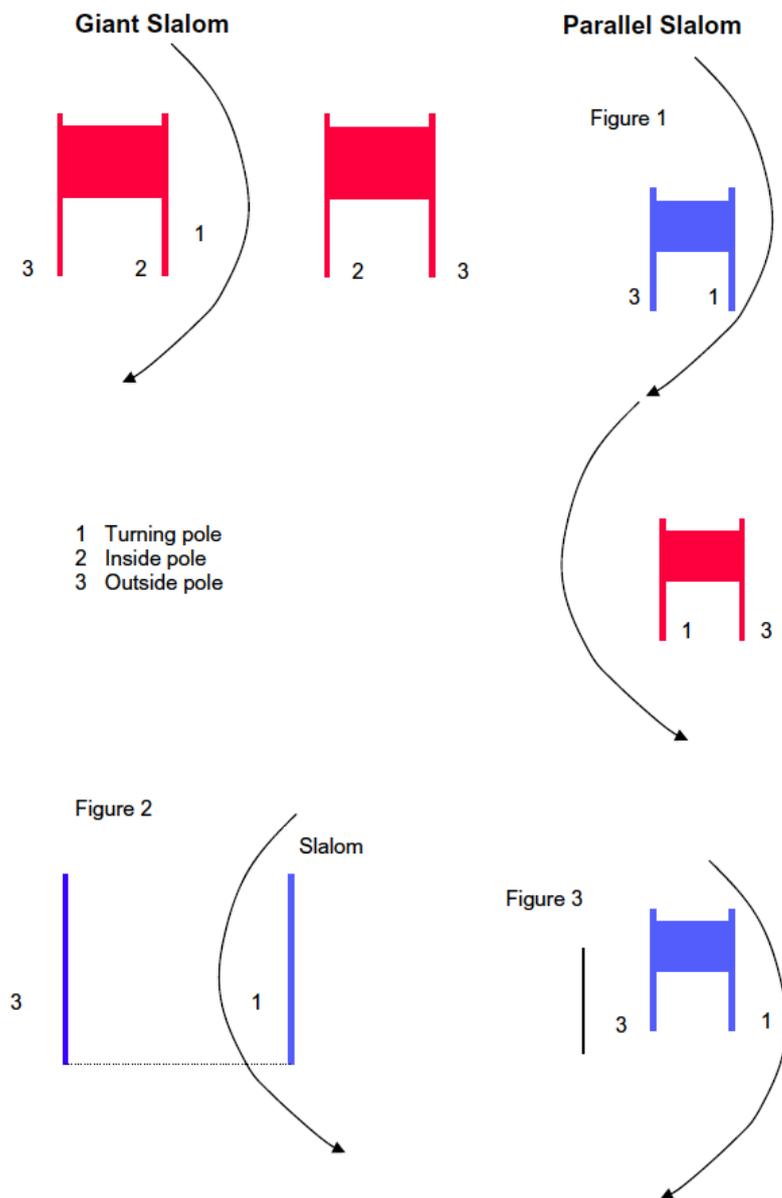
661.3 旗門審判員は、選手が外的援助（例：転倒の場合など、第628.13 条参照）を受けなかったかを監視しなければならない。この種の違反も同様に旗門記録票に記入しなければならない。

661.4 正確な通過

661.4.1 選手の両スキーの先端と両足が旗門線を横切ったとき、旗門を正確に通過したことになる。もし、選手の片方のスキーが外れてしまった場合は、例えば、スラロームポールをまたいでいないその場合は、もう片方のスキーの先端と両足が旗門線を通り抜けなければならない。

ばならない。このルールは、選手が旗門まで登って戻らなくてはならない場合にも有効である。

661.4.1.1 滑降、大回転、スーパー-G の旗門線は、フラッグでつながったポール2 組から成る旗門のインナーポール間の芝面最短線である（第661 条、図 A）。



661.4.1.2 回転の旗門線はターニングポールとアウトポール間の地面最短線である（第661 条、図C）。

661.4.1.3 選手の両スキーの先端と両足が旗門線を通過する前に、垂直に置かれたポール

を選手が移動させてしまうことがあっても、両スキーの先端と両足で正規の旗門線を通過しなければならない(斜面へのマーキング)。

661.4.2 パラレルスラロームでは、両スキーの先端と両足がゲートマーカの外側をターンの方向に通過したとき、正確な通過となる(第661条、図B)。

662 旗門審判委員の職務の重要性

662.1 各旗門審判員は競技ルールについて十分な理解をしているべきである。

旗門審判員はジュリーの指導に従うことが求められる。

662.2 旗門審判員の判定は公平(先入観のない)でなければならない。旗門審判員は発生した違反行為について確信を持って判定しなければならない。

662.3 自分の記録を確認するため、隣の旗門審判員と相談することができる。コース上のシュプールを調べるため、ジュリーメンバーを通じてレースを少し中断するよう要求することもできる。

662.4 隣接の旗門審判員、ジュリーメンバー、公式ビデオコントローラーの選手に関する報告が、当該の旗門審判員の記録と異なる場合には、選手の失格の可能性や抗議についての判定を考慮に入れジュリーはこれらの記録を自由に判断する。

663 選手への情報提供

663.1 選手が失敗または転倒した場合、旗門審判員に質問することができる。旗門審判員は、選手が失格となるような過失を犯し、選手より質問された場合、状況を知らせなければならない。

663.2 選手は、自分の行動に完全に責任を持ち、この点について旗門審判員に責任を取らせることはできない。

664 失格の即時公表

664.1 ジュリーは、旗門審判員が失格となる過失を直ちに合図するように、特定色の旗を揚げる、信号音、または、開催者が用意する他の手段の使用を決定することができる。(第670条ビデオコントロール参照)

664.2 旗門審判員は即時公表があっても、記録票に違反行為の記録は必ず行う。

664.3 旗門審判員は、要請によりジュリーメンバーに情報を提供しなければならない。

665 1 本目と2 本目の競技終了時の旗門審判員の任務

665.1 ジュリーの指示に従い、旗門審判係長(またはその助手)はすべての旗門記録票を集め、主審に渡す。

666 競技終了後の旗門審判員の任務

666.1 失格となる過失を記録した旗門審判員及び再レースとなるような出来事を目撃した旗門審判員は、ジュリーの抗議処理が終了するまで待機する。

666.2 待機中の旗門審判員を解散させるのは、TDの責任である。

667 旗門審判員の追加任務

667.1 旗門審判員は、旗門ポールの差し替え、旗の装着や取り外しなど、必要な任務に以

外の任務について要請がある場合は執行する。

667.2 旗門審判員は、コースをクリアにし続けるアシストをする。選手や第三者によって設置されたマーキングなどを排除する。

667.3 選手がレース中に妨害を受けた場合、その選手は直ちに停止し、最寄りの旗門審判員にその旨報告しなければならない。旗門審判員は旗門記録票にこの事実状況を記入し、1本目または2本目の終了時に、ジュリーに提出できるようにしなければならない。

668 旗門審判員の位置

668.1 旗門審判員は、他の人から離れた位置を選ばなければならない。自分が担当する旗門、地形、コースがよく見える位置でなければならない。機敏に行動ができる程度に近い位置とする。ただし、選手の妨げとならない程度に離れていなければならない。旗門審判員は安全な場所に位置していなければならない。

668.2 開催者は、たやすく見分けられるように旗門員の服装を整えなければならない。服装は、ゲートフラッグと混同してしまう色ではないこと。

668.3 旗門審判員は、ランが始まる前に十分な余裕を持って配置につかななければならない。開催者は旗門審判員に対し、天候によっては必要な対候衣や軽飲食物の供与をすることを推奨する。但し、この場合、ゴミがコース上の散乱しないように配慮しなければならない。

668.4 旗門審判員は、その任務遂行に必要な器材の供給を受けなければならない。

669 旗門員の数

669.1 開催者には、十分な人数の有能な旗門審判員を揃える責任がある。

669.2 開催者は、トレーニング及び特にレースに動員できる旗門審判員の人数をジュリーに報告しなければならない。

669.3 冬季オリンピック、FIS 世界選手権及びFIS ワールドカップでは、旗門審判員を動員数はジュリーによって決められる。

670 ビデオコントロール

開催者が公式ビデオコントロール用の専門設備を持っている場合は、ジュリーが公式ビデオコントローラーを任命する。ビデオコントローラーの任務は、競技者の正確な旗門通過の監視である。

680 スラロームポール

アルペン競技で使用されるすべてのポールは、スラロームポールと称され、リジッドポールとフレックスポールに区別される。

680.1 リジッドポール

補足：直径最少20mm から最大32mm で、ジョイントのない丸い均一なポールが、リジッドポールとして認められる。セットされたときに雪面から1.80m 以上出る長さで、破片にならない素材（プラスチック、可塑性を与えた竹、またはこれらに近い特性をもつ材質）で作られたものでなければならない。

680.2 フレックスポール

フレックスポールには屈曲するスプリングが内蔵されている。これらはFIS 規格に適合していなければならない。

680.2.1 フレックスポールの使用

滑降を除くFIS カレンダーに掲載されているすべてのアルペン競技では、フレックスポールを使用しなければならない。但し、ジュリーよりの要請で滑降においても使用する場合もある。

680.2.1.1 スラローム

スラロームポールは、赤または青で色づけしなければならない。ターニングポールはフレックスポールでなければならない。

680.2.1.2 大回転とスーパーG

大回転とスーパーG では、スラロームポール2 組を使用し、各組ともポールの上にフラッグを取り付ける。フラッグは片方のポールから外れるか破れるように固定するか結びつけなければならない。ターニングポールは、フレックスポールでなければならない。

680.2.2 フレックスポールのFIS 規格

フレックスポールの構造や機能などに関する規定（仕様）の詳細は有効なFIS フレックスポール使用に準拠する。（FIS Specification of Flex Poles）

690 大回転とスーパーG のゲートフラッグ

FIS カレンダーに掲載されている全ての大回転とスーパーG は、FIS の公認を受けているフラッグを使用しなければならない。FIS が公認したゲートフラッグは、FIS ウェブサイトで紹介されている。第901.2.2 条と第1001.3.2 条は有効。

690.1 フラッグにからまった場合のリリース

選手がフラッグを引っかけた際に安全に外れるかどうかの実験で、70kg の人が時速75km/h のスピードでポール間を通過してしまった場合のシミュレーションを行う。

その際、10 回の繰り返しで、10 回とも安全に外れなければならない。

690.2 通常のポール衝突時の強度

通常のポール衝突時に、フラッグは外れてはならない。雪面より70cm の高さにおいて、70kg の人が時速75km/h のスピードで当たって通過した場合の実験で、30 回の反復テストを3 回繰り返しでも外れないだけの強度が求められる。

690.3 通気性

フラッグは、風に対して通気性の良い素材を使用する。

690.4 フラッグへの広告

フラッグへの広告は、通気性とフラッグのリリース機能を損なうことがないように行う。

<種目別特別ルール>

700 滑降 (Sprint Downhill)

701 テクニカルデータ (Technical Data)

701.1 標高差 (Vertical Drop)

701.1.1 男子コース (Men's Courses)

FIS 世界スキー選手権及び、FIS ワールドカップ : FIS コンチネンタルカップ :

- 200m 300m

その他すべてのFIS レース :

- 150m 300m

701.1.2 女子コース (Ladies' Courses)

FIS 世界スキー選手権及び、FIS ワールドカップ : FIS コンチネンタルカップ :

- 180m 250m

すべてのレース :

- 150m 250m

701.2 コース全長 (Course Length)

コース全長は、計測テープ、計測ローラーまたはGPS で計測し、スタート及びリザルトリストに印刷しなければならない。

701.3 旗門 (Gates)

701.3.1 滑降競技の旗門は、4本のスラロームポールと2枚のフラッグから成る。

701.3.1.1 滑降コースは、赤いまたは青い旗門でマークする (701.3.2 参照)

701.3.1.2 男女同一コースを使用する場合、女子用の追加旗門は青でなければならない。

701.3.2 フラッグには、横0.75m、縦1.0m程度の大きさの長方形の布製パネルを使用する。このフラッグは、選手ができるだけ容易に認識できるように、ポールに取り付けなければならない。赤の代わりに明るいオレンジ色の素材も使用できる。安全ネットがフラッグと同色で識別しづらい場合は、状況に応じ他の色のフラッグを (一般的には青または赤) 使用する事ができる。

701.3.3 旗門の幅は、最10mなければならない。

702 コース (The Courses)

702.1 滑降コースに関する共通規則

FIS 世界選手権、FIS ワールドカップの滑降コースには、特別なインスペクション (コース審査) を実施しなければならない。このインスペクションではテクニカルデータと共にそのコースが必要条件を満たしているかだけでなく、技術的要求度も高くなければならない。

702.2 コースの一般的特徴 (General Characteristics of the Courses)

滑降競技は、技術、精神力、スピード、リスク、肉体のコンディションという5つの要素によって特徴づけられる。滑降コースをスタートからフィニッシュまで、異なるスピード

で滑り降りることができるようにしなければならない。

702.3 コースレイアウトに関する特別規則

(Particular Regulations for the Course Layout)

地形の自然なうねりはそのまま残して構わない。

ジャンプにつながる淵や急な下りへのアプローチは、徐々に緩やかな傾斜でなくてはならない。カーブの外側には、必要であればフォールゾーンや安全設備を計画すべきである。

これらのコースは、通常約50m幅にするべきである。コース公認を担当するインスペクターはこの最低幅で十分かを判断し、必要であれば、幅を広げることを命じることができる。

また狭い部分の前後にあるコースエリアが許す限りにおいて、ラインや地形的な条件次第では、50m以下の幅を認めることもできる。

選手がコースを外れたときにぶつかる可能性のある障害物は、高さのあるセーフティネット、セーフティフェンス、パッド、袋詰めされた藁、あるいは同様の適切な方法で、必要であればスリップシートと共に保護しなければならない。保護されていない、藁を束ねた俵は使用できない。

702.4 輸送手段 (Means of Transport)

スタートへはリフトやシャトルサービスを用意しなければならない。

703 コースセッティング (Course Setting)

703.1 旗門のセッティング (Setting of the Gates)

703.1.1 旗門は、望ましいレーシングラインが描けるようにセットする。

703.1.2 難しいジャンプや難しい通過地点の前では、適切なコースセッティングによりスピードをコントロールするべきである。

703.1.3 アウトポールを取り外さなければならない場所では、インポールが旗門として機能する。

703.2 コース整備とコースインスペクション (Preparation and Inspection of the Course)

703.2.1 国際スキーカレンダーに掲載されているすべての滑降競技では、レースコースは最初のジュリーインスペクションの前に完全に整備と整えてレースができる状態にしておくべきである。

テクニカルアドバイザーやコース公認報告書が定めた、またはFIS-TD(FIS世界選手権、そしてワールドカップでは主審または副審を含む)と主催者とで、チーム到着前に同意したすべての設備を配備しておくべきである。

703.2.2 公式トレーニング初日のトレーニング開始前に、ジュリーは(テクニカルアドバイザーがいれば一緒に)そして基本的にはチームキャプテンやコーチの立ち会いの下にインスペクションを実施する。

703.2.3 第1回公式トレーニングの開始前に、選手はビブを携行して、完全なコースインスペクションを行う。インスペクション時間はジュリーが決定する。

703.2.4 ジュリーメンバーは、コースやトレーニング等に関する要望、提案を選手やコーチから受け取る立場であるべきである。

704 公式トレーニング (Official Training)

FIS 世界選手権、FIS ワールドカップ、FIS コンチネンタルカップの滑降トレーニングについては、特別規定が制定できる。

704.1 参加義務 (Obligation to Participate)

公式トレーニングは切り離すことのできない競技の一部である。選手はトレーニングに参加しなければならない。代替選手が認められた場合、その選手も公式トレーニングに参加しなければならない。

704.2 期間 (Duration)

インスペクションと公式トレーニングには、基本的に3 日間を予定する。

704.2.1 ジュリーは、トレーニング数の削減、またはトレーニング数を最少である一本にする決定ができる。

704.2.2 公式トレーニングは、必ずしも連続した日程で行わなくても良い。

704.3 レースができる状態の整備 (Race ready Preparation)

公式トレーニング初日までに、すべての設備 (スタート、コース、フィニッシュエリア) をレース同様の状態に完全に整備しておかなければならない。

704.3.1 すべての観客コントロール用柵を整備しなければならない。

704.4 応急処置と医療サービス (First Aid and Medical Service)

救急処置と医療サービスは、全トレーニング時間中、完全に機能できるようにしておかなければならない。メディカルサポートの必要条件の詳細はF I S Medical Guide のChapter 1 にて、医療規定指針を含め記載されている。

704.5 スタートへのリフト施設の優先権 (Priority on the Lift Facilities to the Start)

主催者は、選手及び特定の登録された役員がトレーニング時間を有効に活用できるようにするため、リフト待ちをすることなくスタートへ上られるよう、リフトへの優先乗車権を確保しなければならない。

704.6 トレーニング (ビブ) ナンバー

すべての公式トレーニングランでは、選手はレースと同様にトレーニングナンバー (ビブ) を着用しなければならない。

704.7 スタート順 (Starting Order)

スタート審判またはジュリーが任命した役員は、スタートリストを使用して、選手がトレーニングナンバー順にスタートしていること、また最低 (Slalom805.1) スタートインターバルが守られていることを確認しなければならない。

704.8 計時トレーニング (Timed Training)

704.8.1 トレーニング最終2 日間の少なくとも1 日は、タイム計測を行わなければならない。

704.8.2 トレーニング日のそれぞれのランの記録されたトレーニングタイムは、トレーニングリザルトリストの発行やラウドスピーカーによって、発表しなければならない。

スコアボードを準備してもよい。このタイムは、遅くともチームキャプテンミーティングの時にはチームキャプテンに知らせなければならない。

704.8.3 選手は、最低1回の計時トレーニングに参加しなければならない。

704.8.4 トレーニングランの最中に転倒、停止、追い越された場合、選手はレースコースを離れなければならない。その回のトレーニングで、滑降コースを続けて滑ることはできない。ただし、選手がコースの端をフィニッシュまで降りてくることは構わない。

704.8.5 トレーニング最終日からレース当日の間に気象変化（降雨など）があった場合、レース当日にジュリーメンバーが同行して、選手のコースインスペクションを実施することができる。

704.8.6 可能な場合はいつでも、レーススケジュールと同じ時間でトレーニングを1回は行うべきである。

705 イエローゾーン (Yellow Zones)

705.1 インスペクション (Inspection)

要求があった場合、ジュリーはトレーニング及びレースでイエローゾーンを設定できる。イエローゾーンには、後続の選手に警告するために振る黄色または黄色/黒のフラッグを用意しておかなければならない。このゾーンは最初のインスペクション前に明示しなければならないし、選手により認識されるべきである。

705.2 トレーニング (Training)

選手がトレーニング中にイエローゾーンで停止させられた場合、その選手には停止させられた地点から再スタートする権利がある。

選手の要請により各ジュリーメンバーは、運営的観点から及びそれに必要な時間の遅れを考えた場合に可能である場合には、選手に再トレーニングを許可することができる。この場合、最後の選手がスタートする前にスタート審判のところへ出向く責任が選手にはある。これをしなかった場合、この許可は撤回される。

705.3 レース (Race)

選手がレース中にイエローゾーンで停止させられた場合、ジュリーが運営的観点から可能であるとみなせば、選手には再レースの権利が与えられる。ジュリーは最後の選手がスタートリストに上がる前にその選手の再レースを取り行わなければならない。

705.4 義務 (Obligation)

イエローフラッグが振り下ろされた場合、選手は直ちに停止しなければならない。

705.5 号令 (Commands)

「スタート・ストップ」の号令で、スタート審判は直ちにスタートを止めなければならない。「スタートストップ・イエローフラッグ・ストップ」の号令で、スタート審判は直ちにスタートを止めなければならない。スタート審判は、スタートを止めた事、既にスタートした番号とスタート待機している番号を速やかにトランシーバーから、伝えなければならない。(スタートストップ完了、23番オンコース、24番ホールド) その場に居るジュ

リーは、「スタートストップ」の際イエローフラッグ

でコース上の選手を止める必要があるかを、責任を持って判断しなければならない。

706 滑降競技の実施 (Execution of the Sprint Downhill)

706.1 1 本で行う滑降競技 (Sprint Downhill in One Run)

滑降競技は、1 本のランで実施される。

706.2 2 本で行う滑降競技 (Sprint Downhill in Two Runs)

706.2.1 ある国の地形的理由により、ICR で定められた標高差の条件を満たす滑降競技が実施できない場合、2 本に分けて行う滑降競技を開催することができる。

706.2.2 最低標高差は

FIS 世界スキー選手権及び、FIS ワールドカップ：FIS コンチネンタルカップ：

- 150m 250m

その他すべてのFIS レース：

- 120m 180m

コース全長 mini：500m

706.2.3 順位は2 本の合計で決定する。2 本目の出走順番は、第621.11 条の規定を適用。

706.2.4 滑降競技に関するすべてのルールが、2 本で行う滑降競技にも適用される。

2 本という条件に起因する問題が起きた場合は、ジュリーが裁定する。

706.2.5 2 本とも同日に実施するべきである。

707 クラッシュヘルメット (Crash Helmet)

滑降の選手及び前走者は、全員競技用品規格にかなったクラッシュヘルメットを着用する義務がある。これはレースだけでなく公式トレーニングについても適用される。

FIS sports で着用されるヘルメットは特定のイベント用にデザイン、製造されているものでなければならない。そして、C E マークが付いて、CEE 1077, US2040, ASTM F2040, SNELL S98 又はRS98 等、適切な基準を満たしているものでなければならない。

708バックプロテクター (Back protection)

選手及び前走者は、全員競技用品規格にかなったバックプロテクターを着用する義務がある。これはレースだけでなく公式トレーニングについても適用される。

709ショルダープロテクター (Shoulder protection)

選手及び前走者は、全員競技用品規格にかなったショルダープロテクターの着用を推奨する。これはレースだけでなく公式トレーニングについても適用される。

800 回転 (Slalom)

801 テクニカルデータ (Technical Data)

801.1 標高差 (Vertical Drop)

801.1.1 男子コース (Men's Courses)

FIS 世界選手権及びFIS ワールドカップ：

- 90m - 140m (小委員会によってmini80mとすることができる)

その他すべてのFIS レース：

- 80m - 120m

(小委員会によってmini60mとすることができる)

801.1.2 女子コース (Ladies' Courses)

FIS 世界選手権及びFIS ワールドカップ：

- 80m - 140m

その他すべてのFIS レース：

- 60m - 120m

801.1.3 チルドレンコース

K1: K2: 最大 100m

801.2 旗門 (Gates)

801.2.1 回転の旗門は、2本のスラロームポール(第680条)から成る。

801.2.2 連続する旗門は、交互に青と赤が並ばなければならない。

801.2.3 旗門の幅は、4m以上8m以下でなければならない。

ヘアピン、標高、又は延長ゲートの組み合わせ内における2つの旗門の距離は、0.75m以上でなければならない。

連続する旗門のターニングポール間の距離は0.75m以上**15m以下(2008改定)**(すべてのカテゴリーに有効)でなければならない。例外チルドレン競技 - 12m以内

801.2.4 旗門数 / 方向転換数

801.2.4.1 FIS 世界選手権及びFIS ワールドカップ：FIS, コンチネンタル、FISレース

標高差 30%-35% +/- 3 方向変換数

チルドレン競技：

標高差 30-35% +/- 3 方向変換数

802 コース (The Courses)

802.1 コースの一般的特徴 (General Characteristics of the Courses)

802.1.1 FIS 世界選手権では、コースは斜度約25%~40%の斜面に設定されなければならない。斜度は33%未満でも構わないが、40%を超えるのは、コースのごく短い部分だけに限る。

802.1.2 前述の落差や斜度を考慮に入れた上で理想的な回転コースは、選手が適切かつ正確なターンとスピードを一体化することができるようにデザインされたターンの連続を含むものでなければならない。

802.1.3 回転競技では、すべてのターンが素早く完了できるものでなければならない。通常のスキー技術とは相いれない曲技を要求するようなコースであるべきではない。それは、地形に適した旋回を技術的に巧みに構成し、単独旗門や複数旗門でつながれ、流暢に滑ることができると同時に様々な半径の弧で方向を変えるなど、あらゆるスキー技術を最大限に試すようなコースであるべきである。旗門は決してフォールラインに沿ってのみセット

すべきではない。トラバースを使って点在するフルターンが必要となるようにもセットすべきである。

802.1.4 コース整備 (Preparation of the Course)

回転競技は、できるだけ固い斜面の上でレースを実施しなければならない。

レース中に芝がたまった場合、コース係長は斜面を踏み固めるか、可能であればコースから取り除くよう保証しなければならない。

802.2 コース幅 (Width)

2 本とも同一の斜面にセットする場合、コース幅通常50m程度とすべきである。

803 コースセッティング (Course Setting)

803.1 コースセッター (Course Setters)

803.1.1 回転斜面のインスペクション (Inspection of the Slalom Slope)

コースセッターは、コースをセットする前に、このインスペクションを行わなければならない。回転のセットは、上位30 選手の平均能力に相応するものにするべきである。

803.2 旗門コンビネーションの数 (Number of Gate Combinations)

回転には、オープンゲート (水平旗門) とクローズゲート (垂直旗門) がなければならない。また3 つから .4 つのヴァーティカルゲートによって構成される「ヴァーティカル・コンビネーション」を最少 1 箇所、最大で3 箇所及び「ヘアピン・コンビネーション」を最少3 箇所設置しなければならない。又、最少1つ最大3つのディレイドターンを設置しなければならない。ディレイドターンのターニングポールの間は最短12m、最大18mなくてはならない。

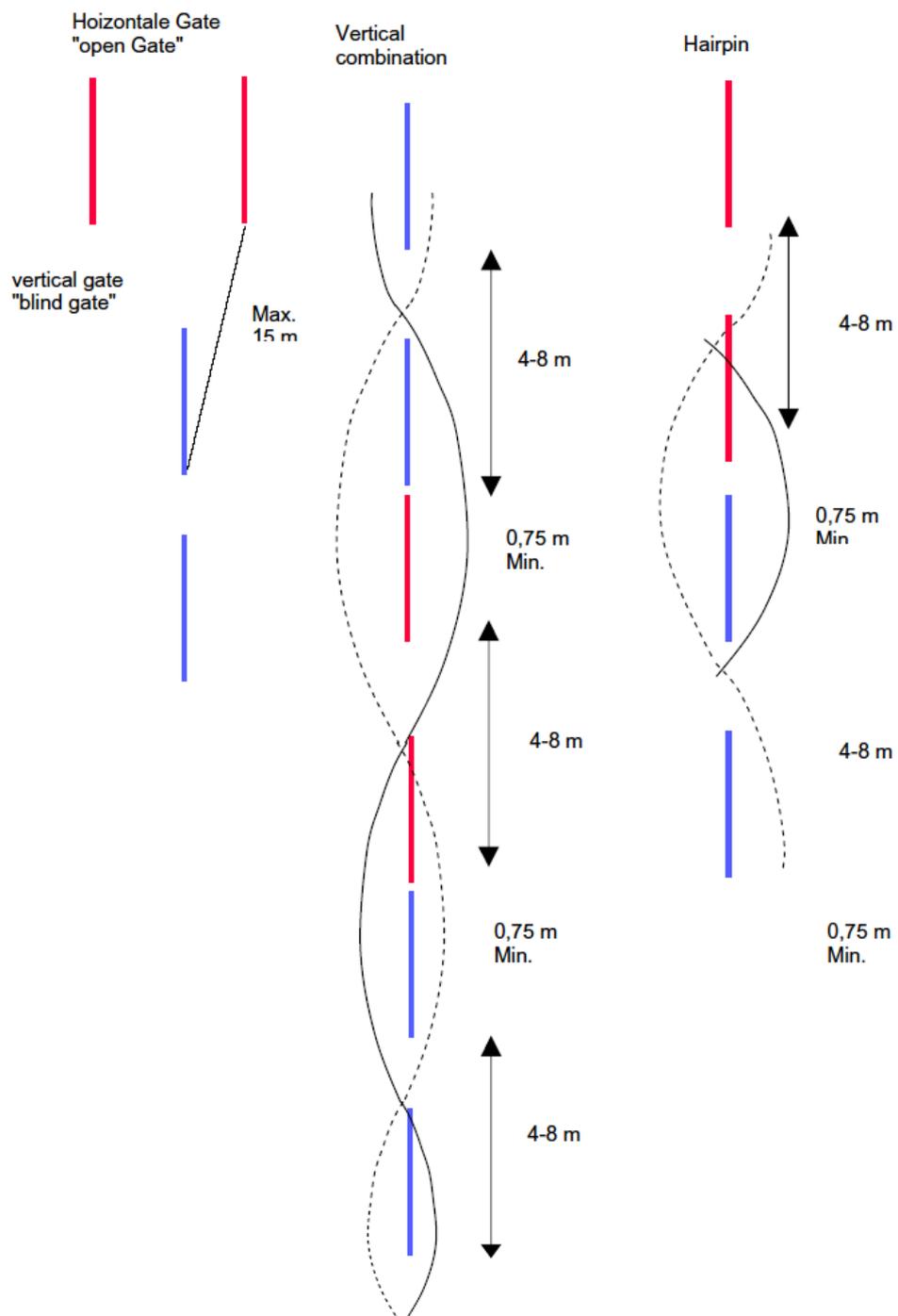
803.2.1 チルドレン

- チルドレン 1 : 最大 2 箇所のヘアピンと、 3 旗門からなるヴァーティカル・コンビネーションを最大 1 箇所設置する。
- チルドレン 2 : 最大 3 箇所のヘアピンと、 3 ~ 4 旗門からなるヴァーティカル・コンビネーションを最大 2 箇所設置する。
- 最少 1 つ最大 3 つのディレイドターンを設置しなければならない。

チルドレンのレースでは、軽量の柔軟スラロームポール (25 ~ 28.9mm) が使用されるべきである。

803.3 旗門及び旗門コンビネーション (Gates and Combinations of Gates)

最も重要な旗門と旗門コンビネーションの種類は、「オープンゲート」、「ヴァーティカルゲート」、「ヴァーティカルコンビネーション」、「ヘアピン」そして「ディレイドゲート」である。



803.4 セッティング (Setting)

回転のセッティングに際しては、次の原則を順守すべきである：

803.4.1 標準化された旗門コンビネーションの単調な連続は避ける。

803.4.2 現代の回転競技にある技術的難度を高めることもなく、滑走の滑らかさを損なう

だけなので、急激な減速を選手に強いる旗門は避けるべきである。

803.4.3 難度の高い旗門コンビネーションの前に、選手がそのコンビネーションをコントロールして通過できるようにするための旗門を最低1つはセットすることが望ましい。

803.4.4 スタート直後あるいはコースの終わりに難度の高いターンをセットすることは望ましくない。選手がスピードによってフィニッシュを通過できるよう、フィニッシュ付近ではむしろ速い旗門をセットすべきである。

803.4.5 最終旗門はフィニッシュに近すぎず、また選手をフィニッシュの中央に誘導するものであるべきである。斜面の幅により必要であれば、両コースで共通の最終旗門を使用しても構わない。ただし、前述の赤と青の旗門が交互に並ぶというルールは守るものとする。

803.4.6 コースセッターがセッティングの進行を監視できるようにスラロームポールはセット後直ちに、コース係長またはそのアシスタントが固定（ねじ込む）すべきである。

803.5 回転コースの点検（Checking of the Slalom Course）

コースセッターがセットを完了したら、ジュリーは次の事項に特に注意を払い、レースができる状態にコースが整備されているかを点検しなければならない：

- スラロームポールがしっかりと固定されている（ねじ込まれている）こと。
- 旗門の色の順番が正しいこと。
- ポールの位置に印がつけられていること。
- 番号がアウトポールに順番通りに付けられていること。
- ポールが雪上から十分に出ていること。
- 選手が間違えないよう、2つの回転コースが十分離れていること。
- 選手が間違えないよう、予備ポールが正しく配置されていること。
- スタートとフィニッシュは、第613条及び第615条に従っていること。

804 コースインスペクション（Inspection of the Course）

804.1 コースは選手のインスペクション開始時から理想的なレースコンディションになっていなければならない。また選手がインスペクション中にコース作業員から妨害を受けることがあってはならない。ジュリーがインスペクションの方法を決定する。

選手はスタートナンバーを携行しなければならない。選手は整備されたコースをスキーで滑り降り、旗門を通過してはならない。

804.2 スタート付近に整備された練習コースを用意することが望ましい。

805 スタート（Start）

805.1 スタートインターバル（Start Intervals）

回転競技のスタートインターバルは不規則である。計時計算係長またはその特別なアシスタントが、ジュリーとの合意の下で、選手がスタートするべき時をスタート合図員に伝える。コース上の選手がフィニッシュする前に、次の選手をスタートさせても構わない。

805.2 スタート順（Starting Order）

805.2.1 1 本目は、スタートナンバーに従う。

805.2.2 2 本目のスタート順は、第621.11 条を参照。

805.3 スタート合図 (Start Signal)

スタート合図員は、次のスタートの指令を受け次第、選手に “ Ready ” / “ Attention ” / “ Achtung ” と予告し、数秒後に “ Go! Partez! Los! ” のスタート合図を出す。選手はスタート合図後、約10 秒以内にスタートしなければならない。

805.3.1 選手は役員に呼ばれた後1 分以内にスタートに現れなければならない。繰り上げスタート時間については、考慮しなければならない。ただし、スタート審判は、遅延が「不可抗力」によるものと判断した場合には、それを許しても構わない。疑問がある場合には、スタート審判は選手に暫定スタートを許可し、通常のスタート順に入れることができる。スタート審判が必要な決定を下す。

805.4 有効スタートと不正スタート (Valid Start and False Start)

各選手は第805.3 条に従ってスタートしなければならない。従わない場合には失格となる。

806 回転種目の実施 (Execution of the Slalom)

806.1 2 本の滑走 (Two runs)

回転競技は、常に2 つの異なるコースで2 本の滑走を行い、成績を決定する。

2 つのコースは、ジュリーが決定した順序で1 本目、2 本目と順番に使用しなければならない。選手を2 つのグループに分け、両コースで同時にスタートさせることは認められない。可能な限り、2 本とも同日に開催すべきである。

806.2 2 本目の制限 (Limitation in the Second Run)

ジュリーには2 本目の出場選手人数を半分に減らす権利がある。ただし、減らす場合にはそのことを大会要項 (招待状) に明記するか、レース開始前に公式掲示板で発表し、かつ、ドロー前にチームキャプテンミーティングで通達していること。

806.3 ビデオ及びフィルムコントロール (Video and Film Control)

FIS 世界選手権、FIS ワールドカップ及びヨーロッパカップでは、回転競技のすべてが記録できるように、組織委員会はビデオ撮影の手配を整えておかななければならない。

国際スキーカレンダーに掲載されている他のレースについても、ビデオまたはフィルムによるコントロールを推奨する。

807 クラッシュヘルメット

すべての選手、前走者は競技装備詳述を満たすため、クラッシュヘルメットの着用を義務付けられている。このルールは公式トレーニングにおいても競技会と同様に適用される。

FIS sports で着用されるヘルメットは特定のイベント用にデザイン、製造されているものでなければならない。そして、C Eマークが付いて、CEE 1077, US2040, ASTM F2040, SNELL S98 又はRS98 等、適切な基準を満たしているものでなければならない。

耳の部分に柔らかい保護材の使用は回転 (SL) 競技のみで使用できる。

808バックプロテクター (Back protection)

選手及び前走者は、全員競技用品規格にかなったバックプロテクターを着用する義務がある。これはレースだけでなく公式トレーニングについても適用される。

809 ショルダープロテクター (Shoulder protection)

選手及び前走者は、全員競技用品規格にかなったショルダープロテクターの着用を推奨する。これはレースだけでなく公式トレーニングについても適用される。

900 大回転 (Giant Slalom)

901 テクニカルデータ (Technical Data)

901.1 標高差 (Vertical Drop)

901.1.1 男子コース (Men's Courses)

- 80m - 180m

901.1.2 女子コース (Ladies' Courses)

- 80m - 150m

901.1.3、FIS 世界選手権、FIS ワールドカップでは、最低標高差は100m (男女とも)。

901.1.4 チルドレンコース

- チルドレン 1 : チルドレン 2 : mini60m max100m

2 本の場合は最高100m、1 本のみの場合は最高130m

901.2 旗門 (Gates)

901.2.1 大回転のゲートは4個のスラロームポール(art.680)と2個の旗からなる。

901.2.2 旗門は、赤と青が交互でなければならない。フラッグは、横約75cm、縦約50cmの大きさとする。バナーは下端が雪上から1m以上の高さにくるようにポールの間に取り付け、ポールから安全に外れるように設置しなければならない(690 条参照)。

901.2.3 旗門の幅は、4m 以上、8m 以下でなければならない。

連続する2 旗門の最も近いポール間の距離は10m 以上でなければならない。

901.2.4 大回転は次の通りセットしなければならない(小数点以下を四捨五入した数を方向転換数とする) :

- 標高差(メートル)の15~20%。

- チルドレンの場合は10~15%。

902 コース (The Courses)

902.1 コースの一般的特徴 (General Characteristics of the Courses)

地形はできればうねりや起伏に富んでいるべきである。コース幅は通常約50m にすべきである。

コース公認を担当するインスペクターは、この最低幅で十分かを判断し、必要であれば、幅を広げることを命じることができる。

また狭い部分の前後にあるコースエリアが許す限りにおいて、ラインや地形的な条件次第では、50m 以下の幅を認めることもできる。

902.2 コース整備 (Preparation of the Course)

コースは、滑降レースと同様に整備しなければならない。旗門がセットされる場所や、選手がターンしなければならない場所は、回転競技と同様に整備しなければならない。

903 コースセッティング (Course Setting)

903.1 セッティング (Setting)

大回転競技のセッティングでは、次の原則を順守すべきである：

903.1.1 1 本目のセットはレース前日に行うべきである。2 本とも同じコースにセットできるが、2 本目はセットし直さなければならない。

903.1.2 大回転のコースセッティングでは、回転競技に比べて旗門幅が広く、旗門間の距離が長いので、コンビネーションの要素はあまり重要な役割を果たさない。そのため、ほとんどの場合、地形を巧みに利用することが回転競技に比べてはるかに重要となる。従って、地形を最大限に活用し、主にシングルの旗門をセットする方が良い。コンビネーションをセットしても構わないが、主として地形的変化に乏しい部分にセットする。

903.1.3 大回転競技は、様々なロングターン、ミディアムターン、スモールターンから成る。選手が旗門間に独自のラインを自由に選択できるようにするべきである。可能な限り、斜面の幅をフルに活用するべきである。

903.1.4 チルドレンのコースをセットするコースセッターは、選手の身体能力に特に配慮しなければならない。

904 コースインスペクション (Inspection of the Course)

レース当日も、コースはトレーニングが行われないよう閉鎖される。旗門は遅くともスタート1 時間前までに、最終的なセットが完了していなければならない。最終セット後に選手は、スキーで登るか、またはコース沿いにゆっくりと歩いて降りるかのいずれかの方法で、コースを下見することができる。ジュリーがインスペクション方法を決定する。旗門をスキーで滑って通過し、コース上で旗門が要求するターンと平行した形でターン練習することを禁止する。選手はスタートナンバーを携行しなければならない。

905 スタート (Start)

905.1 1 本目は、スタートナンバーに従う (第621.3 条、622 条)。

905.2 2 本目のスタート順は、第621.10 条を参照。

906 大回転種目の実施 (Execution of the Giant Slalom)

906.1 大回転競技は、常に2 本の滑走によって決定する (男女とも)。

2 本目を同じ斜面で開催しても構わないが、旗門をセットし直さなければならない。できる限り、2 本とも同じ日に開催すべきである。

906.2 チルドレン1 の大回転は、1 本で行われる。チルドレン2 は、2 本で開催することができる。チルドレンは、公式に定められたヘルメットを着用する義務がある。

906.3 ビデオコントロール (Video Control)

可能であれば、第806.3 条は、大回転競技にも適用される。

907 クラッシュヘルメット

すべての選手、前走者は競技装備詳述を満たすため、クラッシュヘルメットの着用を義務付けられている。このルールは公式トレーニングにおいても競技会と同様に適用される。FIS sports で着用されるヘルメットは特定のイベント用にデザイン、製造されているものでなければならない。そして、CEマークが付いて、CEE 1077,US2040,ASTM F2040,SNELL S98 又はRS98 等、適切な基準を満たしているものでなければならない。

908バックプロテクター (Back protection)

選手及び前走者は、全員競技用品規格にかなったバックプロテクターを着用する義務がある。これはレースだけでなく公式トレーニングについても適用される。

909ショルダープロテクター (Shoulder protection)

選手及び前走者は、全員競技用品規格にかなったショルダープロテクターの着用を推奨する。これはレースだけでなく公式トレーニングについても適用される。

1000 スーパーG (Super G)

1001 テクニカルデータ (Technical Data)

1001.1 標高差 (Vertical Drop)

1001.1.1 男子コース (Men's Courses)

- 120m - 180m (小委員会によってmini100mとすることができる)

その他すべてのFIS 競技会 :

- 90m - 150m

1001.1.2 女子コース (Ladies' Courses)

FIS 世界選手権、FIS ワールドカップ :

- 90m - 150m (小委員会によってmini90mとすることができる)

その他すべてのFIS 競技会 :

- 350m - 600m

1001.1.3 チルドレンのコース

- チルドレン1・チルドレン2 : 最低80m、最高120m

1001.2 コース全長 (Length of the Course)

コース全長は、計測テープ、計測ローラーまたはGPS で計測し、スタートリスト及びリザルトに記載しなければならない。

1001.3 旗門 (Gates)

1001.3.1 スーパーG 競技の旗門は、4本のスラロームポール(第680.2.1.2条)と2枚のフラッグから成る。

1001.3.2 旗門は、赤と青が交互でなければならない。フラッグは、横約75cm、縦約50cmの大きさとする。フラッグは、下端が雪上から1m以上の高さにくるようにポールの間に取り付け、ポールから安全に外れるように設置しなければならない(第690条参照)。

1001.3.3 旗門は、オープンゲートではインナーポール間が6m以上8m以下、クローズゲー

トでは、8m 以上12m 以下でなければならない。フラッグは、少なくとも片方のポールより安全に外れるように設置しなければならない。(第690 条参照)

1001.3.4 スーパーG は次の通りセットしなければならない：

最大旗門数(それぞれに方向転換を有する) = 標高差の10%

最低旗門数(男子15、女子12)

男女同一コースで開催される場合(同一スタート、同一フィニッシュ)は、男子のルールに準拠する。連続する2 旗門のターニングポール間の距離は、25m以上でなければならない(例外：第1003.1.1 条)。

チルドレン1 及び2：標高差の最低8%、最大10%

1002 コース(The Courses)

1002.1 コースの一般的特徴(General Characteristics of the Courses)

地形はできればうねりや起伏に富んでいるべきである。コース幅は通常約50m にするべきである。コース公認を担当するインスペクターは、この最低幅で十分かを判断し、必要であれば、幅を広げることを命じることができる。また狭い部分の前後にあるコースエリアが許す限りにおいて、ラインや地形的な条件次第では、50m 以下の幅を認めることもできる。

1002.2 コース整備(Preparation of the Course)

コースは、滑降レースと同様に整備しなければならない。旗門のある場所や、選手が方向転換する場所は、回転競技と同様に整備しなければならない。

1002.3 競技斜面でのフリースキー(Free skiing on the Competition Hill)

可能であれば選手には、コースがセットされる前の閉鎖された競技斜面で、フリースキーを行える機会を与えるべきである。

1003 コースセッティング(Course Setting)

1003.1 セッティング(Setting)

スーパーG 競技のセッティングでは、次の原則を順守するべきである：

1003.1.1 地形を最大限に活用して旗門をセットすることを推奨する。第803.3 条による旗門のコンビネーションは、少数だけ認める。

この場合の連続するターニングポールの間隔は、25m 以下でも構わないが最低15mなければならない。

1003.1.2 スーパーG 競技は、様々なロングターン、ミディアムターンから成る。選手が旗門間に独自のラインを自由に選択できるようにすべきである。フォールラインに向かって下るだけのセットは認められない。

1003.1.3 地形的に可能な場所では、ジャンプをセットすることができる。

1003.1.4 チルドレンのスーパーG では、沢山の要素を取り入れるべきである。基本的なジャンプや緩斜面の滑走技術が含まれる事が望ましい。コースの選択とセッティングは、スピードと技量を考慮しなければならない。弧は、大回転のラディウスに近いものとする。

子供達は、緩斜面の滑走技術とスピードをそこで身に付ける事が望ましい。

1004 コースインスペクション (Inspection of the Course)

1004.1 レース当日、選手はコースの最終的なセットを、コースに沿ってゆっくりと歩いて下りるか、登るかですべて通過するかのいずれかの方法で、コースを調べることが認められる (インスペクション)。選手は、スタートナンバーを携行しなければならない。

1004.2 ジュリーがインスペクション方法を決定する。

1005 スタート (Start)

スタート順とスタートインターバルは、第621.3 条、622 条に従う。

1006 スーパーG 種目の実施 (Execution of the Super)

スーパーG は、1 本で実施する。

1006.1 ワールドカップ スーパーG は、1 本で実施する。

1006.2 ワールドカップポイント

女子: 15位 男性: 30位

1006.3 FISポイント

リザルトを残した全ての選手がFISを得る。

1007 クラッシュヘルメット (Crash Helmet)

すべての選手、前走者は競技装備詳述を満たすため、クラッシュヘルメットの着用を義務付けられている。このルールは公式トレーニングにおいても競技会と同様に適用される。FIS sports で着用される。ヘルメットは特定のイベント用にデザイン、製造されているものでなければならない。そして、CEマークが付いて、CEE 1077, US 2040, ASTM F2040, SNELL S98 又はRS98 等、適切な基準を満たしているものでなければならない。

1008 バックプロテクター (Back protection)

選手及び前走者は、全員競技用品規格にかなったバックプロテクターを着用する義務がある。これはレースだけでなく公式トレーニングについても適用される。

1009 ショルダープロテクター (Shoulder protection)

選手及び前走者は、全員競技用品規格にかなったショルダープロテクターの着用を推奨する。これはレースだけでなく公式トレーニングについても適用される。

1010 イエローゾーン (Yellow Zones)

第705 条が適用される。

1100 複合競技 (Combined Competitions)

1100.1 共通規則

第201.6.2 条及び、第201.6.9 条に基づき、競技種別の技術規定及び、FIS が承認する規定において、アルペン複合競技を開催できる。

1100.2 複合競技はすべてのレベルにおいて開催できる。特別なルールが制定された際はこれらのルールはICR の相対的な部分として考慮する。(例: オリンピック冬季大会、世界

スキー選手権、カップレース)

1100.3 次の競技種別を複合させる事が出来る。

- スーパーコンバインド
- クラシックコンバインド
- 特別な形式の種別の複合化

1100.4 複合競技は、個人、または団体戦で開催できる。

1100.5 選手に与えられるスタート番号(ビブ)はその競技のすべてに適用される。

1100.6 複合競技における成績は選手が夫々の複合する種別に出場し、中間成績に存在してのみカウントされる。

1100.7 複合競技の成績は、種別毎、または、ランのレースタイムを合算する。特別な形態の複合種別(第1103条)は夫々の規定によって計算される。

1100.8 OC は、大会要綱(invitation)に二本目、または、それに続くランの出場枠を明示しなければならない。但し、 Jury はその数を調整できる。

1100.9 スタート順番は、第621条によって決められる。特別な複合種別については、第1103.2条を参照。

1100.10 中間成績の発表は、その競技、または、ランが終了して時点で告知する。

公式記録はその競技が終了した後に公開する。

1100.11 開催者は、異なる競技種別を続けて複合させて開催できるが、事前の告知及び、プログラムへの掲載をしなければならない。 Jury はそのスケジュールを必要に応じて変更できる。

1101 スーパーコンバインド(スーパーコンビ)

1101.1 スーパーコンビは滑降またはスーパー-G と単一ランのスラロームをそれぞれのルールを順守して競われる。スーパーコンビは続く二本出走競技である。

1101.2 滑降、または、スーパー-G は、それぞれの種別に特に公認されたコールを使用しなければならない。回転競技はこれらのコースで開催しても構わない。

1101.3 両方のランは同一の日に開催する。(Jury は例外事項を決定できる。)

1102 クラシカルコンバインド

1102.1 クラシカルコンバインドは滑降と回転種別によって競われる。両種別とも単独の競技として別々に考慮される。

1102.2 回転競技を第二競技として開催する場合、その2本目の最終走者は彼らが一本目で30位以内に入れなかった倍は、「Z」または「ZK」とマークする。

1103 特別な形態の複合種目

1103.2 FIS は I C R の第700条から第1000条に準じた一つ、又は複数の種別とその他の F I S の競技種目、または、他のタイプのスポーツとの複合競技の開催を承認する場合もある。(例: アルペンスキー競技とノルディック、又は、水泳、またはセーリングなど)。開催にあたっては事前に F I S の承認を得る必要場ある。選手の参加及び全体の規定につ

いては、ICRの規約に準拠しなければならない。

1210 団体競技 (Team Competition)

1210.1 団体競技の開催を認める。

1210.2 正反対の契約、協定がない場合、5名競技者によってチームは形成され、その中で上位3名の成績をカウントする。

1210.3 各チームの選手はドローの前に指名されなければならない。

1210.4 各種目のICRの定めるルールが順守された競技が実施された場合、FISポイントが与えられる。

1210.5 チームの順位は各チームの選手の上位3人のレースポイントとの合算値にて決められる。もし、その値が同じであった場合、上位一位の選手の成績によって判断する。

1210.6 複合競技における順位は、1100.7条に基づいて各種目のチーム獲得点数の計算にて決められる。同点であった場合、DH,SG、GS、そしてSLの順にその種目における順位で決定される。

1210.7 チーム競技はチルドレンでも実施できる。このようなチーム競技は「チルドレンのためのチーム競技規格」と表示すべきである。

1211 チーム種目

この種目は二本ラン(スーパーGとスラローム)で、各ラン、4人一組で競い合う。

1211.1 参加

すべての加盟国連盟には少なくとも4競技者(男子2名と女子2名)の出場資格が各種目(スーパーGとスラローム)に与えられる。

1211.1.2 国別参加者

国単位及び、ランでは最大女子2名、男子2名が出走しなければならない。各国ごとのチーム規模は最大6名である。

1211.2 競技コース

男女同一コースで開催する

1211.3 登録

国は、FISポイントの逆順に登録する。女子はビブナンバー1から4、男子は5から8までをアルファベット順に受け取る。

1211.4 ランキング

国別のチームの勝者は、各国のシリーズ(1競技者辺り1シリーズ)単位の順位ランキングの合算値によって確定する。

順位ランキングの合計値が同じ場合、各シリーズの最上位(1女子、2男子、3女子、4男子、5女子、6男子、7女子、そして8男子)が考慮される。更にそれでも同一値になった場合は、全競技種別のタイムがカウントされる。

1211.5 スタートでのアナウンスメント

女子シリーズ1にあっては、競技開始5分前に行う。

以後、続く他のシリーズでは、前の競技終了後から次の競技開始の1分前までに行う。
ジュリーによって調整された時間にアナウンスができない場合、競技者はスタートできない。
= DNS

1211.6 スタートの制限

一人、又は同じ競技者はFISの国内種別において1ラン/1スタートのみ。

1220 パラレル種目 (Parallel Events)

1221 定義 (Definition)

パラレルレースは、並行した2本あるいはそれ以上のコースで2名あるいはそれ以上の選手が同時に競い合う競技である。コースのセット、地形、斜面の状態はできる限り同一とする。

1222 標高差 (Vertical Drop)

コースの標高差は50m 100m でなければならない。旗門数は、スタートとフィニッシュを除き、12旗門から20旗門でなければならない。

各レースの所要タイムは、15秒から20秒にするべきである。

チルドレン1 (K1) チルドレン2 (K2) : 最高40mで8-12旗門

1223 コースの選択及び整備 (Choice and Preparation of the Course)

1223.1 2本あるいはそれ以上のコースをセットするのに十分な幅があり、できればわずかに凹状になっている(どこからもコース全体を見渡すことができる)斜面を選ぶ。

地形の変化は、斜面のすべての表面も同じ状態でなければならない。

コースレイアウトについては、プロフィールと難易度が同じでなければならない。

1223.2 選ばれた斜面全体の状態は、両コースに同じレース条件を提供できるように、回転競技のコース整備と同様に一貫して固くなければならない。

1223.3 レースの円滑かつ迅速な実施を保証するため、コースに隣接したリフトが不可欠である。

1223.4 コースは、バリアで完全に囲わなければならない。コーチ、選手及びサービスマン用の場所を、柵などで仕切り、確保するのが望ましい。

1224 コース (The Courses)

1224.1 各コースには一連の旗門、ポールまたはカーブマーカーを配置する。

各旗門は横約30cm、縦約70cmのフラッグを取り付けた2本のスラロームポールから成り、このフラッグは破れたり、外れたりするように取り付ける。(690条参照)

1224.2 FIS加盟の各国スキー連盟、またはこれらの各国スキー連盟に所属し連盟の承認を得たクラブは、近隣国連盟またはそのクラブを、自らの開催する競技会に招待することができる。ただし、これらの競技会を国際競技会として公表、告知してはならない。また、告知の際に、制限内容を明確にしなければならない。

1224.3 同一のコースセッターがすべてのコースを設置し、コースが同一かつ平行であるか確認する。コースセッターは、コースの流れがスムーズで、バラエティーに富んだカーブ

があり、リズム変化が出るようにしなければならない。けっして上から下まで長くまっすぐに滑り降りるような競技には、するべきではない。

1224.4 各コースの第1 旗門はスタートから8m 以上10m 以下のところに設置しなければならない。

1224.5 フィニッシュライン直前、最終旗門以降は、できれば選手がフィニッシュの中央に向かうように2 つのトラック間の区切りを明確にしなければならない。

1225 コース間の距離 (Distance Between the Two Courses)

2 つの相応するマーカー間の距離 (ターニングポール間) は、6m以上7m以下でなければならない。スタートゲート間の距離も同様でなければならない。

1226 スタート (Start)

1226.1 スタート装置 (Start Device)

2 つのゲートはそれぞれ横100cm、縦40cm とする。スタートブロック (スキーの後) は、スキーを保護するためにテフロンでカバーしなければならない。各ゲートの重さは、30kg。ゲートの開放: 電気コントロール (24 ボルト)。ボルト (ロック) システムは、スタート・ガンで両ゲートが外側に同時に開くように電磁石を利用するべきである。このスタートシステムは、手動で操作しても構わない。

1226.2 ジュリーとスターターと一緒にスタートをコントロールする。ジュリーが選手にスタート許可を与えてからでなければ、スタート合図を出すことはできない。同時スタートを保証できるシステムであれば、どんなスタートシステムを使用しても構わない。

1226.3 不正スタート (False Starts)

次の場合、ペナルティが科される:

1226.3.1 選手の少なくとも1 本のスキーの先端がゲートに触れていなかった。

1226.3.2 選手が両方のスキーポールをマークされた場所に突かなかった。

1226.4 スタート合図 (Start command)

スタート合図員が “Ready Set”、“Attention Pret” または “Achtung Bereit” と合図を与え、ゲートを開くスタート音が発せられる前に、スタート合図員はまず赤コースでスタートする選手に “Red ready?”、“Rouge pret?” または “Rot fertig?” と聞き、次に青コースの選手に “Blue ready?”、“Blue pret?” または “Blau fertig?” と聞いて選手が準備できているかを確認しなければならない。両選手が “yes”、“oui” または “ja” と答えた後でなければ、スタート合図員はスタート合図を出すことができない。

1226.5 片方あるいは両方のスタートゲートが、明らかに機械の故障により閉じたままである場合には、スタートをやり直さなければならない。

1227 フィニッシュ

1227.1 フィニッシュエリアは、左右対称でなければならない。フィニッシュのラインは、スタートポストのラインと平行でなければならない。

1227.2 各フィニッシュラインは、フィニッシュとなるフィニッシュバナーでつながれた

2本のポールが目印となる。この幅は、それぞれ最低7mなければならない。

内側のポールは並べて立てる。

1227.3 各々フィニッシュへ見やすいように導いて出口を設置する必要がある。

1228 ジュリー及びコースセッター (Jury and Course Setter)

1228.1 ジュリーは、次のように構成する：

- ・ 技術代表 (the Technical Delegate)
- ・ 主審 (the Referee)
- ・ 競技委員長 (the Chief of Race)

1228.2 その競技のジュリーがコースセッターを任命する (もしFIS が選ばなければ)。

パラレルコースをセットする前に、コースセッターはジュリー及びコースの責任者 (競技委員長及びコース係長) の立ち会いの下にコースのインスペクションと研究を行わなければならない。

1229 計時 (Timing)

スタートが同時なので、フィニッシュ時の両選手のタイム差のみ記録する。数個の光電管と自動印刷機が作動し、最初にフィニッシュした選手のタイムが「ゼロ」となり、次にフィニッシュした選手と最初の選手とのタイム差が1000 分の1 秒単位で算出される。

1230 2 コースでのパラレル種目の実施 (Execution of a Parallel on Two Courses)

2 名の選手で争うレースは、2 本ずつ行い、選手は2 本目にコースを交替する。

1230.1 選手の人数 (Number of Competitors)

決勝の出場人数は、32 名までにすべきである。これら32 名の選手は、直接エントリーした選手または予選の上位32 名の選手となる。

1230.2 組み合わせ (Formation into Pairs)

1230.2.1 選手2 名による16 組は、選抜レースの成績、その時点のワールドカップ、コンチネンタルカップの順位または、FIS ポイントなどに従い、次の方法で組み合わせる：

- 1 位と32 位 9 位と24 位
- 2 位と31 位 10 位と23 位
- 3 位と30 位 11 位と22 位
- 4 位と29 位 12 位と21 位
- 5 位と28 位 13 位と20 位
- 6 位と27 位 14 位と19 位
- 7 位と26 位 15 位と18 位
- 8 位と25 位 16 位と17 位 (別添の組み合わせ表を参照)

1230.2.2 選手には1 番から32 番までの番号が付き、この番号は競技終了まで同じである。

1230.2.3 スタート順：表に従い、上から下の順にレースする。グループ毎に1 本目のレースをすべて行い、続いて2 本目のレースを行う。

スタート番号の小さい方が最初に赤コース、大きい方が青コースを滑る。2 本目は、これ

が逆になる。この方法は、決勝を含むすべてのレースに適用される。

1230.2.4 選手は、上から下までコースインスペクションを1回することができる。

インスペクション時間は10分間。

1230.2.5 第1ラウンドの結果16名の勝者が残る。つまり、各グループにおいての2本の合計タイムが小さい選手や2回ともゼロだった選手が勝者である。

1230.2.6 対戦相手がいなくてあまった選手は、レース開始前に、2コースのどちらかで、1本だけトレーニングランを行うことができる。

1230.3 第2ラウンド (Second Round)

1230.3.1 第1ラウンド通過選手16名は、組み合わせスタート方式に従い、上から下へ順にスタートする。

1230.3.2 これらのレースも2本行う。8名が準々決勝へ進出する。

1230.3.3 パラレル種目の成績がワールドカップのような総合順位にカウントされる場合は、第2ラウンドの結果を利用して9位から15位の順位を決定する。第2ラウンドの対戦相手とのタイム差が最も小さい選手が9位となり、以下タイム差が小さい順に順位を決定する。途中棄権の選手がいる場合は、完走数または滑った旗門数に従って評価する。

1230.4 準々決勝 (Quarterfinals)

1230.4.1 第2ラウンド通過選手8名は、組み合わせスタート方式に従い、上から下へ順にスタートする。

1230.4.2 敗者4名の中から対戦相手とのタイム差により5、6、7、8位を決定する。

1230.5 準決勝と決勝 (Semi finals and Final)

1230.5.1 準々決勝通過選手4名は、スタート方式に従い、上から下へ順にスタートする。

1230.5.2 準決勝の敗者は、決勝進出選手が1本目のレースを行う前に、3、4位決定の1本目を行う。次に準決勝進出選手が2本目を行い、続いて決勝進出選手が最終レースを行う。

1231 レースのコントロール (Control of the Races)

旗門審判員は、両コースとも外側に立つ。各旗門審判員は自分が管理するコースの色と同じ旗を持つ。この旗は各旗門審判員のコース担当部分での失格をジュリーに知らせるために直ちに使用される。

黄色の旗を持った役員 (ジャッジ) がコース中間辺りに立ち、そこで失格が示されたコースの方向に黄色の旗を上げて、旗門審判員の失格を直ちに判断する。黄色の旗を上げることにより、選手の失格の確認となる。

1232 失格

1232.1 次の場合失格となる：

- 不正スタート (第1106.3条) をする。
- もう一方のコースへコース変更をする。
- 故意または無意識で対戦相手を妨害する。
- 片方のスキーが旗門またはポールの内側を通り、もう片方が外側を通る。

- 旗門の外側でターンをしなかった。
- フィニッシュしなかった。

1232.2 いずれのラウンドでも、両選手が1 本目または2 本目のどちらかで転倒した場合、先にフィニッシュに到達できた選手が次のラウンドに進出する。両選手ともフィニッシュしない場合は、滑った距離が長い方の選手が次のラウンドに進出する。

1232.3 1 本目でフィニッシュしなかった選手または失格となった選手は、
2 本目でスタートできない。

1233 回転規則 (Slalom Rules)

必要なコース公認や競技規則を含め、すべての回転規則が有効である。

1240 KOシステム

1240.1 参加

関係する各種のルールに基づいてすべての選手は予選会に参加することが出来る。

1241 タイムフレーム様式

組織的理由により、同一日に他のイベントを開催できない。

1241.1 予選 - コース1

品格のある遂行、伝統的なコース長と標高差。

スタート順番は関連ルールに従って決める。

FIS 加算値 (FIS Adder) を含むFIS ポイントは有効とする。

スタートナンバーは競技終了まで同じ。

1241.2 中間ラウンド、第1 戦目 - コース2

予選ラウンドにて上位30 位の選手は次の予選ランに進む。(30 位は1 位と対戦する)

3 名の幸運な敗者は次のランに復活する。彼らのタイムにより、15 名の予選通過選手の後にランクされる。もし、同じヒート(ラン)で二人の選手が途中棄権、もしくは1 戦目で失格となった場合、敗者復活のオプションが適用される(4 番目の幸運な敗者が2 戦目に進む)。同順位の場合、両選手とも次のランに進める。

1241.3 中間ラウンド 第2 戦目 - コース3

予選通過した15 選手に3 人の最も早い幸運な敗者(中間ラウンド1 戦目にて同順位の場合は幸運な敗者は2 名のみ)を加えて予選ランを完結する(18 位VS1 位など)。

もし、同じヒート(ラン)で二人の選手が途中棄権、もしくは2 戦目で失格となった場合、2 戦目の復活敗者が3 戦目(決勝)にて9 選手出走のために進む。同順位の場合、両選手とも最終戦に進める。

1241.4 決勝戦 - コース3

予選通過した9 選手(中間ラウンドの2 戦目で同順位の場合は10 選手)が中間ラウンド2 戦目の所要タイムの逆順(リバースオーダー)にてスタートする。

1242 各予選ランと決勝戦の公式成績

1242.1 中間ラウンドの1 戦目終了後、19-30 位を表示する（順位は所要タイムにて決め DNF,DNS,そしてDSQ の場合は予算ラウンドのタイム順とする）。

1242.2 中間ラウンドの2 戦目終了後、10-18 位を表示する（順位は所要タイムにて決め、DNF,DNS,そしてDSQ の場合は中間ラウンド1 戦目のタイム順とする）。

1242.3 決勝戦終了後、1 - 9 位を表示する（順位は所要タイムにて決め、DNF,DNS,またはDSQの場合は中間ラウンド2 戦目のタイム順とする）。

1242.4 最終公式成績には2 戦、3 戦の所要タイムも加える = 優勝者

1242.5 議受付時間：最後のヒート（各ラン）終了後5 分以内

<追加事項>

1280 Service Materials1280.1For は生物分解性物質洗濯と材料に摩擦を減らす wax だけを使用できる（Grass Ski の保護） それらは、無公害であって無害でなければならない。

1280.1.1 選手とサービスマン

選手、サービスマンは洗剤、Wax 材料が無害を示す証明書を TD 提出しなければならない。

1280.1.2 保管、管理

洗剤、Wax は、オリジナルのオリジナルケースの使用を認める。

1280.1.3Wax の保管

モーターオイル缶での保管は不適切とする。

1280.1.4（条項 1280.1 1280.3 補足）

モーターオイル缶への保管は（Grasski の不適當な格納）公共機関(自然保護オフィスと環境保護オフィス)にとって、環境保護法違反を疑う原因となる為。

1281 ウォッシングエリア

スタート前、フィニッシュ後の為にウォッシングエリアを設置しなければならない。

Grass Ski の洗浄はこのエリアのみを許可する。

ウォッシングエリア・サービスエリアは、観衆及びコース全体外の安全な場所であり、駐車場とは別のエリアで無ければならない。

ウォッシングエリア・サービスエリアは案内標識で示されなければならない。

ウォッシングエリア・サービスエリアには排水溝が無ければならない。

（排水は周辺の川・沼を避けること）

選手はウォッシングエリアを清潔に使用しなければならない。